

令和 3 年度

春日市教育委員会事務事業点検評価報告書

令和 4 年 1 0 月

春日市教育委員会

目次

第1	点検評価の趣旨	- 2 -
第2	点検評価の方法	- 3 -
第3	令和3年度エデュケーションかすが	- 3 -
第4	「令和3年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価	- 6 -
1	施策の達成度一覧表	- 6 -
2	個別の評価結果	- 9 -
1	共有（共に育てる）の推進	- 9 -
	■大項目 [1] コミュニティ・スクールの推進	- 9 -
	■大項目 [2] 家庭教育力の向上支援	- 15 -
	■大項目 [3] 地域教育力の向上支援	- 19 -
2	学校教育の充実	- 24 -
	■大項目 [1] きめ細やかな指導体制の一層の充実	- 24 -
	■大項目 [2] 児童生徒の心と体づくりの推進	- 30 -
	■大項目 [3] 児童生徒の市民性の育成	- 33 -
	■大項目 [4] 安全・安心な教育環境づくり	- 34 -
3	多様な学びの支援	- 36 -
	■大項目 [1] 多様な学びの機会の情報提供	- 36 -
	■大項目 [2] つながりを深める学びの環境づくり	- 37 -
	■大項目 [3] 図書館活用の推進	- 41 -
4	文化財の保存・活用	- 46 -
	■大項目 [1] 文化財の記録・保存	- 46 -
	■大項目 [2] 文化財の整備・活用	- 48 -
第5	令和3年度コミュニティ・スクール進捗状況評価	- 52 -
1	評価の目的	- 52 -
2	評価方法	- 52 -
3	評価結果の算出方法	- 53 -
4	評価結果表	- 54 -
5	評価結果の考察	- 58 -
第6	教育委員から出された主な意見	- 62 -
第7	学識経験者意見	- 63 -
資料	(令和3年度春日市教育委員会の活動状況)	- 64 -
1	教育委員会の構成(教育長及び教育委員会委員)	- 64 -
2	教育委員会の会議の開催状況	- 64 -
3	教育委員懇談会の開催状況	- 65 -
4	春日市総合教育会議の開催状況	- 66 -

第1 点検評価の趣旨

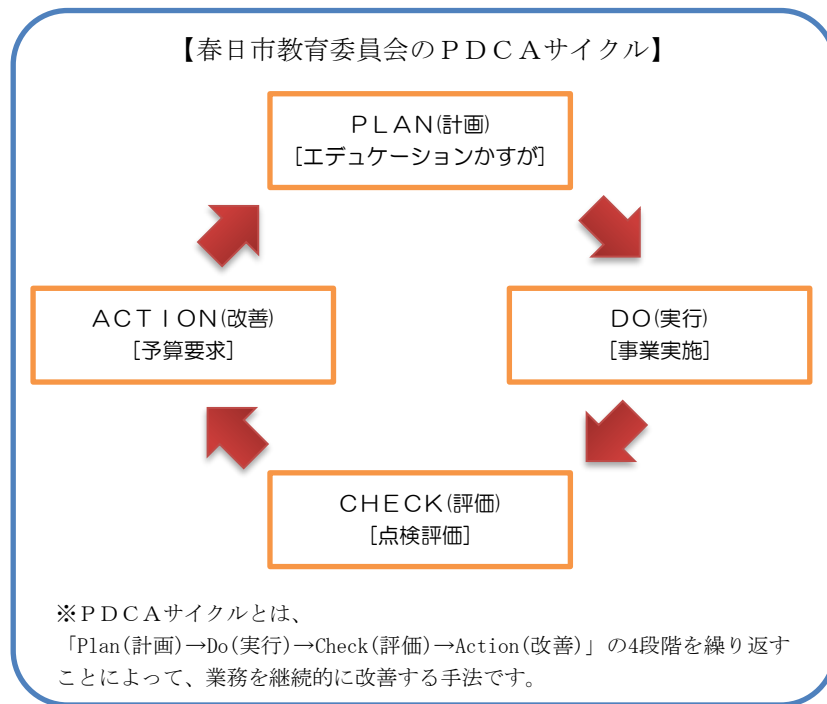
春日市教育委員会事務事業点検評価(以下「点検評価」という。)は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うものです。点検評価の趣旨は次の二点です。

1 公表による教育行政への理解の促進

点検評価報告書を市議会に提出するとともに市民に公表することにより、市民の教育行政に対する理解を深めることを目的とします。

2 P D C Aサイクルによる効果的な教育行政の推進

点検評価を春日市教育委員会のP D C Aサイクルの「C H E C K (評価)」に位置付けます。点検評価を行うことで現状把握及び課題抽出を行い、点検評価の結果を次回(令和4年度)の当初予算編成及び年間計画(エデュケーションかすが)作成につなげていくことで、P D C Aサイクルによる効果的な教育行政を推進します。



【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

第2 点検評価の方法

点検評価は以下の二種類の評価について教育委員会事務局で報告書の事務局案を作成し、これを教育委員懇談会において教育委員と事務局で協議することで情報及び課題の共有を図り、協議内容を反映して教育委員会としての点検評価報告書としてまとめるという方法で行いました。

1 「令和3年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価

春日市教育委員会の単年度計画である「令和3年度エデュケーションかすが」の体系区分に沿って、教育施策の具体的な取組状況を振り返り、その成果と課題(方向)を明らかにするとともに、施策の達成度について自己評価を行いました。

また、次年度以降の改善に結び付けやすいように、評価の対象年度である令和3年度の取組状況だけでなく、現在(令和4年度)の取組状況を併記しました。

施策の達成度は、施策の「小項目」ごと(小項目が一つしかないものは中項目ごと)に次の4段階で評価し、上位の項目の達成度は、下位の項目の達成度の平均値(小数点第二位を四捨五入)で算出しました。

4：十分な成果が見られる。 3：一定の成果が見られる。 2：成果が不十分である。 1：成果が見られない又は未実施。

2 令和3年度コミュニティ・スクール進捗状況評価

各小中学校で実施した「令和3年度コミュニティ・スクール進捗状況評価」について評価結果をとりまとめ、全体的な傾向及び大項目ごとに見た傾向を分析し、今後のコミュニティ・スクールの充実発展に望まれることを明らかにしました。

第3 令和3年度エデュケーションかすが

1 作成趣旨

「エデュケーションかすが」は、小中学校の全保護者、教職員、自治会、市議会、市外からの視察者等への説明資料として、1枚で春日市の教育の全体像及び体系が説明できるように事業レベルまで記載したリーフレットです。作成部数は14,500部で、主な配付部数は、保護者11,000部、教職員900部、自治会800部です。

2 位置付け

「エデュケーションかすが」は、5か年計画である春日市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)に基づく1年間の単年度計画として位置付けています。

また、春日市教育委員会のPDCAサイクルの「PLAN(計画)」に位置付け、これに基づき事業を実施しました。

【令和3年度エデュケーションかすが 表紙・裏表紙】



▲学校・家庭・地域・児童の四者で創る奴国ウォークラリー(令和元年度 須玖小学校)



▲丸付け先生



▲家庭科の授業支援



▲米作り体験授業支援

保護者・地域による学校支援

保護者や地域の方が、特技を生かして学校の教育活動を支援したり、プリント学習の丸付けなど、広くボランティアとして関わっています。

地域・保護者による体験活動支援

地域の方、保護者、おやじの会などの支援により、子どもたちは、放課後や休日に様々な体験や異年齢交流をしています。



▲水鉄砲バトル



▲しめ縄づくり体験



▲放課後子供教室(アンビチャス広場)



▲中学生によるもちつき



▲市クリーン作戦への参加



▲小学生による地域清掃

子どもたちによる貢献活動

子どもたちは、大人の支援を受けるだけでなく、自治会行事への参画や、地域清掃活動など、様々な地域貢献活動を行っています。

学校 家庭 地域
学校・家庭・地域の三者で子どもを **共に育てる共育** を進めています。

福岡県春日市教育委員会 教育部教務課
TEL 092-584-1111 FAX 092-584-1153
https://www.city.kasuga.fukuoka.jp/

みんなで春をつくろう



春日市ウェブサイト

教育施策の4つの柱

- 1 共育(共に育てる)の推進
- 2 学校教育の充実
- 3 多様な学びの支援
- 4 文化財の保存・活用

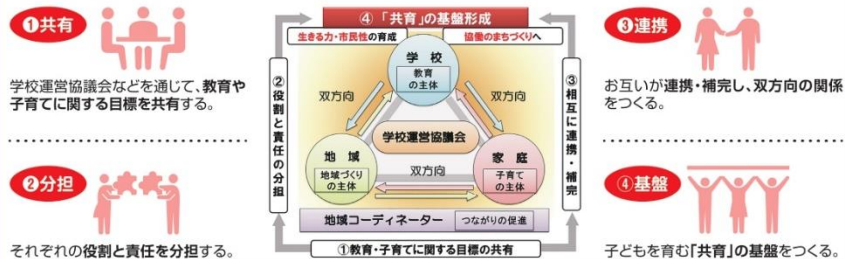
コミュニティ・スクールの取組例(小中学校別)

春日中・小・小・小	春日中学校 校区 春日小、須玖小	春日小学校 地区 昇町、小倉	須玖小学校 地区 須玖南、弥生
■小中合同あいさつ運動 ■小中連携推進会議 ■SSC、SSWとの連携強化 ■新入生生徒会交流と授業体験	●三者をつなぐ「鍛え・育む教育」 ●学校生活の基礎をつくる「3R」 ●市民性を高める「地域貢献活動」 ●中大連携やCSSで学習支援	●いきいき先生による学習支援 ●かすがっ子ワイワイまつり ●親子お弁当の日 ●おやじの会共催の自転車教室	●四者で創る奴国ウォークラリー ●異年齢世代との継続的交流 ●地域行事参加カードの活用 ●ライオンズクエスト地域公開
春日東中・小・小	春日東中学校 校区 春日東小、大谷小、春日南小(一部)	春日東小学校 地区 千歳、光町、春日、宝野、若菜、若菜東	大谷小学校 地区 大和町、大谷、小倉東
■家庭学習の充実 ■部活活動の充実 ■日常的体力づくりの取組 ■小・小・小サミット	●春日の未来を拓く学びの創設 ●部活活動の体制強化 ●地域参画活動への転換 ●地域学校協働本部の体制整備	●地域と「つなぐ」部活会活動 ●地域行事参加カードの活用 ●乗っ子ノートによる家庭連携	●四者の連携によるCS ●生活を支える合っ子ノート ●部活会活動での地域への貢献 ●体力向上:合っ子サーキット
春日西中・小・小	春日西中学校 校区 春日西小、白水小	春日西小学校 地区 上白水、下白水北、下白水南、泉	白水小学校 地区 上白水、白水ヶ丘
■「家庭学習のすすめ」配付 ■3校合同学校運営協議会 ■小・小・小連携・小中連携事業(部活動体験、出前授業等) ■拡大教育相談委員会	●地域貢献活動(地域清掃他) ●学力補充活動の充実 ●生徒の心支援(大学連携) ●おやじ(夜間)ハローととの連携	●三者連携カリキュラムによる継続的な連携授業の展開 ●元氣もりもりカードの継続 ●地域コーディネーターとの連携	●異学年チームプロジェクト ●地域貢献活動(地域清掃) ●地域・保護者連携キャリア教育 ●地域連携カリキュラム
春日南中・小・小	春日南中学校 校区 春日南小(一部)、天神山小	春日南小学校 地区 ちく山、大土原、紅葉ヶ丘、志利、春日、藤原台	天神山小学校 地区 天神山、白水、松ヶ丘
■家庭学習の定着週間 ■不登校解消への情報連携 ■小6中学校1日体験 ■地域行事への積極的参加	●地域行事への参画 ●なんちゃうカレッジ講座 ●南中校区合同防災訓練 ●地域コーディネーターとの連携	●本のプレゼント広場 ●家談(うちどく) ●南っこお手伝い・挨拶宣言 ●交通安全クイズ	●わんぱくウォーク等健康教育 ●四者連携によるふれあい行事 ●徹底・挑戦・つながる取組 ●ICT活用による授業改善
春日野中・小・小	春日野中学校 校区 春日原小、春日野小、春日南小(一部)	春日原小学校 地区 春日原、春日原南	春日野小学校 地区 春日公園、平田台、春日
■家庭学習のすすめ ■小中合同あいさつ運動 ■中2小6交流会 ■中学生の小学校行事参加	●生徒部活地域貢献活動 ●地域から学ぶ伝統文化 ●「の中応援団」主催行事 ●学舎かすがの(学習支援)	●たてわり活動プロジェクト ●PTA主催はるっこまつり ●おやじの会主催はるっこ米プロジェクト、おやじと遊ぼう	●心を耕す様々な読書活動 ●タイムバンクチャレンジ ●ボランティアでつくる学校応援団 ●あいさつ運動(学校・家庭・地域)
春日北中・小・小	春日北中学校 校区 春日北小、日の出小	春日北小学校 地区 桜ヶ丘、岡本、須玖北	日の出小学校 地区 日の出町、サンビオ
■黙読清掃・あいさつ・立腰の習慣化 ■9年間の家庭学習指針 ■合唱コンクール等の文化交流 ■小中・小・小連携の充実	●生徒主体の地域貢献活動 ●系統的なキャリア教育 ●異学年で取り組む黙読清掃 ●アクションタイム(自学等)	●きたっぴ先生:学習支援 ●きたっぴ下校:安全指導 ●チャレンジ検定:学力の定着 ●きたっこの記録:家庭と連携	●日の出っ子ノートの活用 ●ふれあい合同大運動会 ●ふれあいサンフェスタ ●全校・地域参加の卒業式

※小学校名の下の[地区]は、春日市地区設置規則に定める地区(自治会の区域)を指しており、住居表示上の町名と違う場合があります。

子どもが育つ・大人が輝く 春日市のコミュニティ・スクール

春日市のコミュニティ・スクールは、子どもの「生きる力」と「市民性」を育むとともに、大人たちが活躍する場ともなっています。「共育」の取組の中で人と人がつながり、「協働のまちづくり」が実現されています。



【令和3年度エデュケーションかすが 本文】



令和3年度 春日市の教育の取組

◇:新規取組 ◆:継続取組

全ての取組は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意して行います。

点検評価報告書
における表記

大項目

中項目

小項目

1 共育(共に育てる)の推進 地域教育課

1 コミュニティ・スクールの推進

(1) コミュニティ・スクールの理解促進

- 小学校区や中学校区におけるコミュニティ・スクールの趣旨や取組への理解・共有の促進
 - ◆ 児童生徒、保護者への説明機会の充実
 - ◆ ウェブ、学校だより等による情報発信
 - ◆ 自治会と連携した取組状況の発信
- コミュニティ・スクールに係る市民の認知度の向上
 - ◆ ウェブ、市報等を活用した情報発信と効果的なPR方法の研究

(2) コミュニティ・スクールの取組の充実

- 学校運営協議会の更なる充実
 - ◆ 熟議による目的・目標・課題の共有化
 - ◆ 児童生徒の学校運営協議会への参画促進
 - ◆ 実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施
- コミュニティ・スクールの取組状況の定期的な評価・検証
 - ◆ 学校関係者評価による教育活動の成果の検証
 - ◆ 進捗状況確認の実施

(3) 地域連携カリキュラムをはじめとする連携・協働活動の充実

- ◇ 中学校区別教育活動一貫リーフレットの作成(2中学校ブロック)
- ◆ 全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約と共有化

(3) 学校・家庭・地域の連携協働体制づくり

- 地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実
 - ◆ 地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進
 - ◆ 地域コーディネーターの活動状況の共有化
- 連携協働体制の充実と地域コーディネーターの効果の検証
 - ◆ 各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進
 - ◆ 地域コーディネーターの配置による効果の検証
- 連携・協働活動の中心となる担い手の確保と幅広い住民の参画の促進
 - ◆ 学校、自治会、PTA等と連携した活動の中心となる担い手の確保
 - ◆ 誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の工夫

2 家庭教育力の向上支援

(1) 家庭教育の学びや交流の場の充実

- ◆ 学びや交流を深める家庭教育学校の実施(通常講座、公開講座)
- ◇ 家庭教育に関する情報提供(市報、SNS)
- ◆ 入学説明会での子育て講演会の実施

(2) 家庭における子どもの基本的生活習慣の確立

- ◇ PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への支援
- ◆ 睡眠教育(眠育)の推進

3 地域教育力の向上支援

(1) 放課後子供教室(アンビシャス広場)の充実

- ◆ 全小学校区での放課後子供教室の実施
- ◆ 活動者への情報提供や研修会の実施
- ◆ 放課後子供教室のPR動画作成(1校)

(2) 地域の青少年育成活動の支援

- 青少年育成市民会議の支援
 - ◆ 六中生徒会サミット研修会、実践発表会等の共同実施と活動への支援
- 子ども会活動等の支援
 - ◆ 子ども会育成連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援
 - ◆ 市内各子ども会活動への支援

(3) 地域で子どもを育てる活動の支援

- ◆ 地域で子どもを育てる活動に関わる個人、団体等の情報共有や交流機会のづくり
- ◆ 活動促進のための地域活動指導員による情報収集と発信



家庭教育学校

3 多様な学びの支援 地域教育課

1 多様な学びの機会の情報提供

- (1) 多様な学びの機会の情報提供
 - ◆ 多様な媒体を通じた学習機会の情報提供

2 つながりを深める学びの環境づくり

- (1) 学びを始めるきっかけづくり
 - ◆ 弥生の里児童画大賞展の実施
 - ◆ 学べる天文台「星の館」の円滑な運営
 - ◆ 実行委員会形式による成人式の実施
- (2) 地域活動につながる学びの機会の提供
 - ◆ まなびのきかけをつくり、地域への関心を高める講座の開催
 - ◆ 市民の交流と地域活動への参加の促進
- (3) 団体への支援と協働
 - ◆ 社会教育関係団体の活動の持続性と活性化への支援

3 図書館活用の推進

- (1) 市民図書館の充実
 - 生涯の学びとくらしに役立つ地域の情報拠点としての図書館機能の充実
 - ◆ 親しみやすく利用しやすい窓口
 - ◆ 市民の本棚としての本や雑誌などの充実
 - ◆ 調べものカウンターの相談体制の充実
 - 子どもの読書活動の推進
 - ◆ 児童力ワンターの相談体制の充実
 - 誰もが図書館サービスを受けられる環境整備
 - ◆ 電子図書館の利用促進
 - ◆ 移動図書館たんぽぽ号の利用促進
 - ◇ Web版市民図書館の利用に関するアンケートの実施



星の館 太陽観察

(2) 図書館活用による学びの支援

- 図書館活用による多様な学びの支援
 - ◆ 春日市図書館を使った調べる学習コンクールの普及
- 家庭・地域における子どもの読書活動の推進
 - ◆ ファーストブック事業の実施
 - ◆ 読書ボランティア講座の実施
- 人がつながる本のある広場
 - ◇ 新たな活動内容による図書館サポーターの新規募集
 - ◆ 夜の図書館など市民参加型事業の実施
 - ◆ 健康講座など連携事業の実施
- (3) 学校図書館の充実
 - 学校図書館の学習センター、情報センター、読書センター機能の充実
 - ◇ 授業での学校図書館の活用を促進するための支援資料収集
 - ◆ 小学校図書及び中学校図書館支援員の全校配置
 - 学校における子どもの読書活動の推進
 - ◆ 学級文庫、図書館だよりなど学校における子どもの読書活動推進事業の実施



調べる学習講座

2 学校教育の充実 学校教育課・教務課

1 きめ細やかな指導体制の一層の充実

(1) 確かな学力の向上と課題解決力の育成

- 教職員の指導力向上
 - ◇ 小学校高学年教科担任制導入による授業改善の推進
 - ◆ ALT(外国語指導助手)、JTE(外国語活動指導員)による授業支援
 - ◇ ICTを活用した授業実践の推進
- 基礎学力の定着
 - ◆ 各小学校の放課後補習学習「まなびや春日」
 - ◆ 少人数学級編制による学力の定着
 - ◆ 問題解決力育成活動による学力の定着
 - ◆ 家庭学習促進のための家庭との連携

(2) いじめの防止等の徹底

- いじめの早期発見、早期対応、早期解決
 - ◆ いじめの認知件数の推移や現状の把握
 - ◆ 学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化
 - ◇ ネットいじめに関する講座等の実施

(3) 校内指導体制の確立

- ◆ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる校内研修
- ◆ 「いじめ防止基本方針」に基づく校内体制の強化、アンケート調査の実施と分析
- ◇ 事例集の作成と共有による校内指導体制の充実

(3) 不登校児童生徒の支援の充実

- 不登校児童生徒の支援の充実
 - ◆ マンツーマン指導体制による個別に合わせた支援
 - ◆ マイスクールにおけるコース制の実施
 - ◇ 小学校5年生、6年生、中学校1年生の35人以下学級編制、小学校高学年教科担任制による環境の変化等への軽減
- 専門職による積極的支援
 - ◆ 不登校専任教員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育相談員の積極的活用による、保護者、児童生徒の支援

(4) 特別支援教育の充実

- ◇ 過級指導教室の運営体制の見直しによる指導の充実
- ◇ 子ども発達支援室との連携による特別支援教育の強化・充実
- ◆ 「わたしたちのこころがわかってほしい」の活用による特別支援教育の理解の促進

(5) 学校における働き方改革の推進

- ◇ 初任者指導方法等研究事業
- ◆ 教職員働き方改革推進研究会
- ◆ 働き方改革取組指針に基づく施策の推進
- ◆ 「春日市部活動指針の指針」に基づく適切な指導時間の徹底
- ◇ 部活動指導員の配置
- ◇ 小学校高学年教科担任制導入による子どもと向き合う時間の確保

2 児童生徒の心と体づくりの推進

(1) 豊かな人間性の育成

- 豊かな人間性の育成
 - ◆ 児童生徒の地域活動等における体験活動と運動した道徳教育の展開
 - ◇ 討議型道徳教育の展開
 - ◆ 社会規範意識を高める指導の推進
- 人権感覚と実践力の向上
 - ◆ 「社会科基礎カリキュラム」
 - ◆ 県読本等「かかやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用した「中学校ブロック授業交流会」
 - ◆ 定期的な体罰実態調査の実施と分析

(2) 体力の向上と食育の推進

- 体力・運動能力調査結果を踏まえた取組の工夫
 - ◆ 体力向上プラン(一校一取組)
 - ◆ 体力アップチャレンジKASUGA
- 望ましい食習慣の定着
 - ◆ 感謝の心を育てる弁当の日
 - ◆ 給食(食文化・産地・献立等)を活用した食育
 - ◆ 食に関する指導研修会の充実



ICTを活用した授業

3 児童生徒の市民性の育成

(1) 市民性の育成

- ◆ 本市独自の地域連携カリキュラムを生かした社会に開かれた教育課程の推進と児童生徒の社会性や自立心の育成
- ◆ 市民性自己内評価(通知表添付)の実施

4 安全・安心な教育環境づくり

- (1) 安心して学び、暮らせる環境の整備
 - 学校、家庭、地域、関係機関等の連携による安全体制の構築
 - ◆ 関係機関との連携による通学路安全点検
 - 学校規模、地域連携の視点からの校区再編
 - ◆ 校区の在り方への検討
 - 学校施設の計画的な改修の推進
 - ◆ 春日南中学校大規模改修工事(第1期)
 - ◆ 春日北中学校航空騒音防止対策工事
 - ◆ 大谷小学校管理棟大規模改修工事
 - ◆ 春日北小学校給食室大規模改修工事
- (2) 防災意識、安全対応能力の向上
 - ◆ 校内避難訓練の実施や地域防災訓練への参画
 - ◆ 交通安全教室の実施
 - ◆ 熱中症予防講習(中1、中2)、救急救命講習(中1)の実施

県産産品を使用した中学校給食

4 文化財の保存・活用 文化財課

1 文化財の記録・保存

- (1) 文化財の記録・保存
 - ◇ 須玖岡本遺跡総括報告書刊行のための準備
 - ◆ 史跡須玖岡本遺跡の地中レーダー探査及び確認調査
 - ◆ 遺跡発掘調査及び報告書作成
- (2) 文化財の調査・研究
 - ◆ 文化財専門委員会による指導・助言の活用
 - ◆ 文化財の市指定の推進
 - ◆ 民俗文化財調査専門員による聞き取り調査及び民具、古文書等の情報収集



五つくり体験(縄巻きづくり)(学校教育支援)

2 文化財の整備・活用

- (1) 文化財への理解の促進
 - 文化財等の周知
 - ◆ 市報、ウェブサイト、SNS等の活用
 - ◆ ガイドブック・パンフレット等の作成・活用
 - 文化財等への関心を高める機会の提供
 - ◆ 牧園の丘フェスタの開催
 - ◆ 資料館事業の充実
 - ◆ 学習コンテンツ「おうちde資料館」の充実
 - ◆ 牧園の丘歴史資料館名鑑館長の設置
- (2) 文化財を保存・活用するための環境整備
 - ◇ 須玖岡本遺跡の公有地化事業の準備
 - ◇ 水城跡の公有地化事業の実施
 - ◇ 特別史跡水城跡整備基本計画に基づく整備事業
 - ◆ 牧園の丘歴史資料館の空調設備改修工事及び屋上防水改修工事
- (3) 市民との連携・協働による文化財の継承
 - ◆ ボランティアの活用と育成
 - ◆ 学校教育支援の推進
 - ◆ 自治会や他団体との連携の推進



文化財専門委員会

第4 「令和3年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価

1 施策の達成度一覧表

施策の達成度は、施策の「小項目」ごと(小項目が一つしかないものは中項目ごと)に次の4段階で評価し、上位の項目の達成度は、下位の項目の達成度の平均値(小数点第二位を四捨五入)で算出しました。

4：十分な成果が見られる。 3：一定の成果が見られる。 2：成果が不十分である。 1：成果が見られない又は未実施。

1 1 共育（共に育てる）の推進

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1]コミュニティ・スクールの推進	3.8	(1)コミュニティ・スクールの理解促進	3.5	①小学校区や中学校区におけるコミュニティ・スクールの趣旨や取組への理解・共有の促進	3	地域教育課
				②コミュニティ・スクールに係る市民の認知度の向上	4	
		(2)コミュニティ・スクールの取組の充実	4.0	①学校運営協議会の更なる充実	4	
				②コミュニティ・スクールの取組状況の定期的な評価・検証	4	
				③地域連携カリキュラムをはじめとする連携・協働活動の充実	4	
		(3)学校・家庭・地域の連携協働体制づくり	3.7	①地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実	4	
				②地域コーディネーターの効果の検証と連携協働体制の充実	4	
				③連携・協働活動の中心となる担い手の確保と幅広い住民の参画の促進	3	
[2]家庭教育力の向上支援	4.0	(1)家庭教育の学びや交流の場の充実	4			
		(2)家庭における子どもの基本的な生活習慣の確立	4			
[3]地域教育力の向上支援	3.3	(1)放課後子供教室（アンビシャス広場）の充実	4			
		(2)地域の青少年育成活動の支援	3.0	①青少年育成市民会議の支援	4	
				②子ども会活動等の支援	2	
		(3)地域で子どもを育てる活動の促進	3			

2 学校教育の充実

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1] きめ細やかな指導体制の一層の充実	3.6	(1) 確かな学力の向上と課題解決力の育成	4.0	①教職員の指導力向上	4	学校教育課
				②基礎学力の定着	4	
		(2) いじめの防止等の徹底	3.5	①いじめの早期発見、早期対応、早期解決	4	
				②校内指導体制の確立	3	
		(3) 不登校児童生徒の支援の充実	3.5	①不登校児童生徒の支援の充実	4	
				②専門職による積極的支援	3	
[2] 児童生徒の心と体づくりの推進	3.0	(1) 豊かな人間性の育成	2.5	①豊かな人間性の育成	3	学校教育課
				②人権感覚と実践力の向上	2	
		(2) 体力の向上と食育の推進	3.5	①体力・運動を通じた心と体づくり	4	
				②望ましい食習慣の定着	3	
		(4) 特別支援教育の充実	4			教務課
[3] 児童生徒の市民性の育成	4.0	(1) 安心して学び、暮らせる環境の整備	3.0	①学校、家庭、地域、関係機関等の連携による安全体制の構築	4	学校教育課
				②学校規模、地域連携の視点からの校区再編	1	
		(2) 自助意識、安全対応能力の向上	3	③学校施設の計画的な改修の推進	4	
		(3) 不登校児童生徒の支援の充実	3.5	①不登校児童生徒の支援の充実	4	教務課
				②専門職による積極的支援	3	
[4] 安全・安心な教育環境づくり	3.0	(1) 豊かな人間性の育成	2.5	①豊かな人間性の育成	3	学校教育課
				②人権感覚と実践力の向上	2	
		(2) 体力の向上と食育の推進	3.5	①体力・運動を通じた心と体づくり	4	
				②望ましい食習慣の定着	3	
		(4) 特別支援教育の充実	4			教務課

3 多様な学びの支援

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1] 多様な学びの機会の情報提供	4.0	(1) 多様な学びの機会の情報提供	4			地域教育課
[2] つながりを深める学びの環境づくり	3.7	(1) 学びを始めるきっかけづくり	3			
		(2) 地域の活動につながる学びの機会の提供	4			
		(3) 団体への支援と協働	4			
[3] 図書館活用の推進	3.0	(1) 市民図書館の充実	3.0	①生涯の学びとくらしに役立つ地域の情報拠点としての図書館機能の充実	3	
				②子どもの読書活動の推進	3	
				③誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	3	
		(2) 図書館活用による学びの支援	3.0	①図書館活用による多様な学びの支援	3	
				②家庭・地域における子どもの読書活動の推進	3	
				③人がつながる本のある広場	3	
		(3) 学校図書館の充実	3.0	①学校図書館の学習センター、情報センター、読書センター機能の充実	3	
				②学校における子どもの読書活動の推進	3	

4 文化財の保存・活用

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	担当課
[1] 文化財の記録・保存	3.5	(1) 文化財の記録・保存	4			文化財課
		(2) 文化財の調査・研究	3			
[2] 文化財の整備・活用	3.8	(1) 文化財への理解の促進	3.5	① 文化財等の周知	4	
				② 文化財等への関心を高める機会の提供	3	
		(2) 文化財を保存・活用するための環境整備	4			
		(3) 市民との連携・協働による文化財の継承	4			

1 共育（共に育てる）の推進

■大項目 [1]コミュニティ・スクールの推進

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1] コミュニティ・スクールの推進	3.8	(1)コミュニティ・スクールの理解促進	3.5	①小学校区や中学校区におけるコミュニティ・スクールの趣旨や取組への理解・共有の促進	3	◆各校での児童生徒、保護者への説明機会の充実 ◆ウェブ、学校だより等による継続的な情報発信 ◆自治会と連携した取組状況の発信	・各校での児童生徒、保護者への説明機会の増加 ・学校からの情報発信の継続 ・取組状況の発信に関する自治会への依頼の実施及び発信の増加	△ ○ ○	地域教育課
					4	◆市ウェブ、市報等を活用した市民への継続的な情報発信及び効果的なPR方法の研究	・市ウェブの充実、市報を活用した広報の継続 ・新たなPR方法の具体的検討	○ ○	
				②コミュニティ・スクールの取組の充実	4.0	①学校運営協議会への更なる充実 ◆学校運営協議会における熟議による目的・目標・課題の共有化 ◆児童生徒の学校運営協議会への参画促進 ◆実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施	・学校運営協議会におけるPDCAサイクルを踏まえた熟議の全校での実施 ・児童生徒の学校運営協議会への参加及び取組の共有化の状況把握の継続並びに各校への推奨の継続 ・参加者アンケートを実施する研修において総合評価の満足度76%以上	○ ○ ○	地域教育課
							・各校における学校関係者評価結果の検証の実施 ・コミュニティ・スクール進捗状況評価の継続及び評価指標見直しの検討	○ ○	
						②コミュニティ・スクールの取組状況の定期的な評価・検証 ◆継続的な進捗状況評価の実施	・中学校区別教育活動一覧パンフレットの作成及び活用 ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び共有化	○ ○ ○	
							・地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進 ◆地域コーディネーターの活動状況の共有化	○ ○ ○ ○	
					3.7	①地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実	・地域コーディネーターの役割の周知及び学校への活用促進の働き掛け ・地域コーディネーター連絡会議の継続 ・県教委主催研修及び市教委主催研修への参加機会確保の継続 ・備品の整備等による職務環境整備の実施	○ ○ ○ ○	地域教育課
		(2)コミュニティ・スクールの取組の充実	4.0	①学校運営協議会への更なる充実	4	◆学校運営協議会における熟議による目的・目標・課題の共有化 ◆児童生徒の学校運営協議会への参画促進 ◆実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施	・学校運営協議会におけるPDCAサイクルを踏まえた熟議の全校での実施 ・児童生徒の学校運営協議会への参加及び取組の共有化の状況把握の継続並びに各校への推奨の継続 ・参加者アンケートを実施する研修において総合評価の満足度76%以上	○ ○ ○	地域教育課
							・各校における学校関係者評価結果の検証の実施 ・コミュニティ・スクール進捗状況評価の継続及び評価指標見直しの検討	○ ○	
							・中学校区別教育活動一覧パンフレットの作成及び活用 ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び共有化	○ ○ ○	
							・地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進 ◆地域コーディネーターの活動状況の共有化	○ ○ ○ ○	
		(3)学校・家庭・地域の連携協働体制づくり	3.7	①地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実	4	◆地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進 ◆地域コーディネーターの活動状況の共有化	・地域コーディネーターの役割の周知及び学校への活用促進の働き掛け ・地域コーディネーター連絡会議の継続 ・県教委主催研修及び市教委主催研修への参加機会確保の継続 ・備品の整備等による職務環境整備の実施	○ ○ ○ ○	地域教育課

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1] コミュニティ・スクールの推進		(3)学校・家庭・地域の連携協働体制づくり		②地域コーディネーターの効果の検証と連携協働体制の充実	4	◇各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進 ◆地域コーディネーターの配置による効果の継続的検証	・連携協働体制の充実に向けた熟議の全校での実施	○	地域教育課
				③連携・協働活動の中心的な担い手の確保と幅広い住民の参画の促進	3	◆学校、自治会、PTA等と連携した活動の中心的な担い手の確保 ◆誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の工夫	・関係者からの地域コーディネーター配置効果の聴き取りの継続的な実施	○	
							・連携・協働活動に関する人材情報の学校、自治会、PTA等との共有	○	
							・地域コーディネーターを通じた地域人材の確保の継続 ・誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の検討	○ △	

2 施策の実施状況

中項目(1) コミュニティ・スクールの理解促進

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①小学校区や中学校区におけるコミュニティ・スクールの趣旨や取組への理解・共有の促進	◎各校での児童生徒、保護者への説明機会の充実 ◎ウェブ、学校だより等による継続的な情報発信 ◎自治会と連携した取組状況の発信	◆各校での児童生徒、保護者へのコミュニティ・スクールの説明機会の充実を、校長会、市教育委員会主催研修等において学校へ推奨 ◆ウェブ、学校だより等による継続的な情報発信を、校長会、地域コーディネーター連絡会議等において学校及び地域コーディネーターへ推奨 ◆自治会だより等での情報発信を11月の自治会長会役員会にて依頼	◎児童生徒への説明を、全校朝会、たより等にて実施する学校数が増加した。 △保護者への説明は、たより等で実施されたものの、説明会の開催は新型コロナウイルスの影響で困難だった。 ◎学校ウェブの更新頻度増加や、学校ウェブ及び学校だよりの掲載内容の充実が見られた。 ⇒自治会と連携した取組状況の発信については、次年度当初に再度依頼し、更なる推進を図る。	◆各校での児童生徒、保護者への説明機会の充実 [通年] ◆ウェブ、学校だより等による継続的な情報発信 ・各校及び地域コーディネーターへの推奨 [通年] ◆自治会と連携した取組状況の発信 ・第1回学校運営協議会内での自治会への発信依頼 [～5月] 及び発信の増加 [通年]
②コミュニティ・スクールに係る市民の認知度の向上	◎市ウェブ、市報等を活用した市民への継続的な情報発信及び効果的なPR方法の研究	◆市ウェブに「地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）」のページ新設 ◆市報4月15日号に地域コーディネーターに関する大記事を掲載 ◆効果的なPR方法の研究 ・プレスリリースの増加（12回実施） ・市制50周年事業における自治会・CS動画作成への着手	◎市ウェブ、市報等を活用し、市民への継続的な情報発信ができた。 ◎マスコミを活用した間接広報が実施できた。 ・テレビ放送延べ9回（ケーブルテレビ含む） ・新聞掲載2回（うち全国版1回） ⇒市制50周年事業における自治会及びCS動画については、次年度も作成を継続するとともに、PR方法を検討していく。	◇市制50周年記念事業におけるPR動画の作成 [～11月] ◆市ウェブサイトの充実 [通年] ◇市報大記事の活用（PR動画に関するもの） ◆効果的なPR方法の検討 [通年]

中項目(2) コミュニティ・スクールの取組の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
① 学校運営協議会の更なる充実	◎学校運営協議会における熟議による目的・目標・課題の共有化 ◎児童生徒の学校運営協議会への参画促進 ◎実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施	◆年度当初に熟議の実施を推奨。9月校長会で実施状況を照会。10月校長会で照会結果を情報提供 ・熟議を1回以上実施した学校数 18校全校 ◆児童生徒が学校運営協議会又は協議会前後における協議に参画した学校数 10校（小学校5校、中学校5校） ◆実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施（参加人数471人） ・教職員赴任者研修 実施日 随時（動画視聴による） 参加人数 96人 ・学校運営協議会委員等研修会（全委員対象） 実施日 第1回会議開催日（4月～6月） 参加人数 282人 ・学校運営協議会委員等研修会（通算任期2年以下委員等対象） 実施日 令和3年10月12日（火） 参加人数 10人 ・コミュニティ・スクール・トップセミナー 実施日 令和3年6月14日（月）、6月17日（木） 参加人数 83人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆教職員赴任者研修会 動画視聴にて実施 ◆コミュニティ・スクール・トップセミナー 実施方法をオンライン開催に変更 ◆市内他校視察研修（中止） ◆県外視察等研修（中止）	◎熟議が全校で実施され、各校の教育目標、教育課題等の共有化が図られた。 ◎児童生徒が学校運営協議会等へ参画する学校数が増加した。 ◎実施方針に基づく計画的かつ体系的なコミュニティ・スクール研修を実施し、多くの関係者への確かな情報提供を行うことができた。	◆学校運営における熟議の実施及び目的、目標、課題の共有化 ・PDCAサイクルを踏まえた熟議の全校での実施 [通年] ◆児童生徒の学校運営協議会への参画促進 ・参加、共有情報の把握、各校への推奨の継続 [通年] ◆実施方針に基づく体系的なコミュニティ・スクール研修の実施 [通年] ・アンケート総合評価満足度76%以上

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
② コミュニティ・スクールの取組状況の定期的な評価・検証	◎学校関係者評価による教育活動の成果の検証 ◎継続的な進捗状況評価の実施	◆学校関係者評価の実施（年2回） ・各校が定めた評価項目による。 ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価の実施（年2回） ・市教育委員会が定めた評価項目による。 ・全校の評価結果を集約及び分析 ・市ウェブへの評価結果の掲載	◎学校関係者評価により、各校における教育活動の成果の検証が的確に実施された。 ◎コミュニティ・スクール進捗状況評価により、現状把握及び検証が的確に実施された。	◆学校関係者評価による教育活動の成果の検証[年2回] ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価の実施[年2回] ◇コミュニティ・スクール進捗状況評価指標の見直し[～2月] ◇電子申請サービスのリニューアル対応[～9月]
③ 地域連携カリキュラムをはじめとする連携・協働活動の充実	◎中学校区別教育活動一覧リーフレットの作成及び活用 ◎全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び共有化	◆中学校区別教育活動一覧リーフレット「わたしたちの9年間 地域との関わり」の作成 ・2中学校ブロック分（春日中学校、春日東中学校ブロック） 印刷部数6,000部（3,000部×2種類） ・当該中学校ブロックの保護者、自治会、学校運営協議会委員等（今後3か年の新小学1年生、転入者等を含む。）分を配付 ・市ウェブへの掲載 ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び一覧表のフィードバック	◎リーフレットの配付により、コミュニティ・スクールの市民への更なる浸透を図ることができた。 ◎リーフレットの市ウェブへの掲載により、転入予定者、転入検討者等に対し、本市の魅力のPR強化を図ることができた。 ◎リーフレットは、地域コーディネーターの協力を得て作成し、地域コーディネーターの活用を促進した。 ⇒令和4年度以降も、各年度2中学校ブロック分を継続して作成する。 ◎地域連携カリキュラムに関する情報を全校で共有し、自校での活用を可能とすることができた。	◆中学校区別教育活動一覧リーフレットの作成及び活用[～3月] ◆全校の地域連携カリキュラムに関する情報の集約及び共有化[～3月] ◇取組の改善、精選及び新たな取組の検討の各校への推奨の実施[通年]

中項目(3) 学校・家庭・地域の連携協働体制づくり

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の実績的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①地域コーディネーターによる連携支援の定着・充実	◎地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進 ◎地域コーディネーターの活動状況の共有化	◆(再掲)市ウェブに「地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)」のページ新設 ◆(再掲)市報4月15日号に地域コーディネーターに関する大記事を掲載 ◆学校組織図等への地域コーディネーターの位置付けを学校へ推奨 ・学校経営要綱 小学校7校、中学校5校 ・校務分掌 小学校9校、中学校6校 ・学校要覧 小学校11校、中学校5校 ◆職員会議での地域コーディネーター紹介を学校へ推奨 ◆各種たよりを活用した自己紹介を地域コーディネーターへ推奨 ◆地域コーディネーターへの学校別訪問(活用状況の聴き取り等)実施 18校全校 ◆学校への活用働きかけ(個別に随時) ◆地域コーディネーターの執務環境の整備(～12月。パソコンの全校追加配備。その他備品の配備。執務スペースの確保等) ◆地域コーディネーター連絡会議の開催(状況及び課題の把握。活動に資する情報提供及び情報共有の実施) 11回 ◆研修機会の確保(コミュニティ・スクール・トップセミナーへの参加及び国県主催研修の情報提供。通年) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆地域コーディネーター連絡会議の実施方法をオンライン開催に一部変更	◎地域コーディネーターの役割を広く周知できた。 ◎学校と地域コーディネーターの双方に、機会を捉えて依頼、助言等を行い、活用を促進できた。 ◎(再掲)リーフレット「わたしたちの9年間地域との関わり」は、地域コーディネーターの協力を得て作成し、地域コーディネーター配置の効果を高めた。	◆地域コーディネーターの役割の周知徹底、活用促進 ・学校組織図への地域コーディネーターの位置づけ、職員会議での紹介の徹底、コミュニティ・スクールだよりの活用[通年] ・学校訪問による活用の働きかけ[随時] ・新任地域コーディネーターのフォローアップ[～7月] ◆地域コーディネーターの活動状況の共有化 ・地域コーディネーター連絡会議の継続[通年] ・研修機会の確保[通年]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 →：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②地域コーディネーターの効果の検証と連携協働体制の充実	◎各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進 ◎地域コーディネーターの配置による効果の継続的検証	◆各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進を、校長会、コミュニティ・スクール・トップセミナー等において学校へ推奨 ◆関係者からの聞き取り及び活動状況から検証を実施(通年) 令和2年度1校当たり活動時間 326.1時間 令和3年度1校当たり活動時間 400.4時間(74.3時間増加) ◆コミュニティ・スクール進捗状況評価における関連項目(Ⅰ3④「地域コーディネーターは、学校と地域とのつなぎ役になっていますか」)の結果 前期 小学校3.5 中学校3.3 後期 小学校3.5 中学校3.4	◎約7割の学校で熟議が実施され、連携協働体制の充実が図られた。 ◎関係者からの聞き取り及び活動状況が良好であることを確認できた。 また、コミュニティ・スクール進捗状況評価の結果は全項目中最も高い数値となっており、地域コーディネーターの配置による効果が検証できた。	◆各校での連携協働体制の充実に向けた熟議の推進 ・「地域コーディネーターの役割」をテーマとした熟議を全校で実施[～3月] ◆地域コーディネーターの配置による効果の継続的検証 ・関係者からの聞き取り、コミュニティ・スクール進捗状況評価の評価項目、活動状況等から検証[通年]
③連携・協働活動の中心的な担い手の確保と幅広い住民の参画の促進	◎学校、自治会、PTA等と連携した活動の中心的な担い手の確保 ◎誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の工夫	◆学校運営協議会委員、実働部会、その他地域学校協働活動の中心的な人材の現況、異動情報等をリスト化 ◆地域コーディネーターを通じた人材の確保の継続(通年) ◆コミュニケーションアプリLINEを活用した学校支援ボランティア募集用公式アカウントの一部校での立ち上げ及び運用。関係資料を地域コーディネーター連絡会議で共有	◎活動の中心的な担い手の状況を可視化し、市内部での情報共有及び外部への情報提供をしやすくなった。 ◎複数校の地域コーディネーターでキャリア教育等の講師情報の共有が実施された。 ◎コミュニケーションアプリLINEの活用により、学校支援ボランティアとの連絡調整の利便性が高まるとともに、地域コーディネーターによるきめ細かな個別対応が実施された。 △LINE公式アカウントを運用している学校が2校に留まっている。	◆学校、自治会、PTA等と連携した活動の中心的な担い手の確保 ・三者による人材情報の共有[通年] ・地域コーディネーターを通じた人材の確保の継続[通年] ◆誰もが参加しやすい学校支援ボランティア等の募集方法の検討[通年]

■大項目 [2] 家庭教育力の向上支援

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 (◇：新規、◆：継続)	達成度「4」の要件	成果	担当課
[2] 家庭教育力の向上支援	4.0	(1)家庭教育の学びや交流の場の充実	4			◆学びや交流を深める家庭教育学級の実施（通常講座、公開講座） ◇家庭教育に関する情報提供（市報、SNS） ◆入学説明会での子育て講演会の実施	・受講生が地域活動や子育てなどに活かせる充実した講座内容の検討の継続	○	地域教育課
							・受講者アンケートの満足度 76%以上	○	
	4.0	(2)家庭における子どもの基本的生活習慣の確立	4			◇PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への支援 ◆睡眠教育（眠育）の推進	・小学校の取組状況が全体の76%以上	○	地域教育課
							・モデル校における眠育授業、睡眠日誌、アンケートの計画的実施	○	
							・眠育リーフレット作成	○	
							・モデル実施の検証	○	

2 施策の実施状況

中項目(1) 家庭教育の学びや交流の場の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎学びや交流を深める家庭教育学級の実施（通常講座、公開講座） ◎家庭教育に関する情報提供（市報、SNS） ◎入学説明会での子育て講演会の実施	◆家庭教育学級の実施 ・幼稚園・保育園(所)児及び小中学生の保護者を中心に講座を実施 ・学級生 47人(前年度58人) ・学習会 10回 (学級生企画(まなカフェ等)4回) ◆公開講座の実施 ・3回(延べ218人) ・アンケートによる受講生の満足度96% 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆各講座で事前申込制の導入による受講者の管理。 ◆消毒・換気の徹底、利用時間の制限等による感染拡大防止対策。 ◆オンラインでの講座を取り入れ、コロナ禍においても中止することなく、講座を実施した。 ◇家庭教育に関する情報提供(市報、SNS)を実施した。 ◆入学説明会での子育て講演会 子育て講演会を中止し、代替として、子育てや家庭教育に関する資料を全小中学校の入学予定者に配付した。 ・市内全小中学校の入学説明会時に配付[1月～2月]	≪家庭教育学級≫ ◎学校・地域でも役立つような様々な視点から家庭教育について学ぶ講座を企画し実施した。 ◎講師と連携し家庭教育力の向上につながる講座を企画し学びを還元した。 ◎学級生自らが実施する「まなカフェ」をオンライン(zoom開催)で行い、学級生同士の交流を深め、仲間づくりにつなげた ⇒講座内容、情報提供等の多様な手法を調査研究する。 ≪公開講座≫ ◎市民に対しオンラインで誰でも受講できる学びの提供を行った。 ◎市民に対し子育てや家庭生活に生かせる学びの提供を行った。 ≪家庭教育に関する情報提供(市報、SNS)≫ ◎市報(隔月)で連載を実施し子育てのヒントや支援となるような情報を提供し、基本的な生活習慣の確立など子育て家庭における必要な家庭教育力の向上を計った。 ≪入学説明会での子育て講演会≫ ◎子育てや家庭教育に関する資料を配付することで、子育て講演会を受講できなかった人へも啓発することができた。 ◎リーフレット(「かていのちから」)を動画にしたものを作成し、子育てや家庭生活に生かせる学びの提供を行った。 ⇒就労している人でも幅広く受講出来るよう、開催時期や内容の見直しを図る。 ⇒情報提供等の多様な手法を調査研究する。	◆家庭教育学級の充実[5～2月] ◆公開講座[7、9、11月] ・7月予定の講座は、台風の影響により8月に実施 ◆家庭教育に関する情報提供(SNS)[5～2月]

中項目(2) 家庭における子どもの基本的生活習慣の確立

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への支援	◆PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への支援 ・各小中学校PTAの取組状況アンケート調査の実施(6月) 実施PTA 小学校10校(83.3%) 中学校1校(16.7%) ・春日市小・中学校PTA連絡協議会へのアンケート調査結果の情報提供(11月)	◎「早寝・早起き・朝ごはん」の各校での実施状況、取組の成果及び課題等について情報提供を行い、取組を支援することができた。	◆PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への支援 ・眠育との連携に関する市P連への情報提供[～5月] ・眠育講演(依頼に応じて調整)

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎睡眠教育(眠育)の推進	◆睡眠教育(眠育)の推進 ・モデル校6校(春日中、春日北中ブロック)による試行を引き続き実施 ・事務の一部を委託し、専門家から助言、指導を受ける。 委託先：筑紫女学園大学 大西 良 准教授 ・児童生徒による睡眠日誌の作成(年2回実施。前期、後期に各1週間) 前期 対象者3,026人 実施率92.96% 後期 対象者3,033人 実施率92.78% ・睡眠と健康に関するアンケート調査(前期の睡眠日誌実施後に年1回実施) 対象者(小学3年生以上)2,380人 実施率94.87% ・専門家による授業支援及び教材支援 小学校授業2校(春日小、日の出小)、中学校授業2校(春日中、春日北中)、睡眠日誌実施に係る事前指導用の動画及び資料の提供、個別カウンセリング1件 ・専門家によるアンケート調査等の集計、解析及び報告書作成並びに学校への提供 ・クラス別集計一覧(担任用)の提供 ・リーフレット「みんなく すいみん教育」の作成(①小学1～3年生、②4～6年生、③中学生用の3種類) 印刷部数20,300部(①6,600部、②7,000部、③6,700部) ・令和元年度から令和3年度までのモデル実施の総括 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆睡眠教育(眠育)の推進 中学校の授業を校内放送による教室での一斉視聴にて実施	◎睡眠日誌をつけることにより、児童生徒は、睡眠を意識した生活をする事ができた。 ・小学生の平日22時より前に就寝する割合 令和元年度59.8% 令和3年度後期74.9%(15.1%増) ・中学生の平日23時より前に就寝する割合 令和元年度37.0% 令和3年度後期41.2%(4.2%増) ◎児童生徒の睡眠のデータやアンケートの集計結果を学級単位にまとめ、担任に提供することで、担任の児童生徒の状況把握や教育相談への活用に至ることができた。 ◎児童生徒のQOL(生活の質)尺度が、令和元年度と令和3年度を比較すると、全項目(身体的健康、精神的健康、自尊感情、家族、友達、学校生活の6項目)で改善した。 △児童生徒の睡眠時間の状況、睡眠不足と感じる児童生徒の割合、寝る前にスマホ、ゲーム、テレビ視聴等をする児童生徒の割合等はあまり改善していない。 ⇒モデル実施を総括した結果、眠育の効果が確認できたため、次年度から小中学校全校に取組を拡大して本格実施する。 なお、モデル実施により明らかとなった課題は、取組内容への反映を図る。 ⇒睡眠日誌を市が回収し、データ化、睡眠タイプの分類等を実施したが、児童生徒のタイムリーな指導に支障があるとの学校からの意見をが聞かれることを受け、市による回収は中止し、教員又は児童生徒自身による活用を支援する手法に変更する。	◆睡眠教育(眠育)の推進[通年] ・全小中学校での実施 ・睡眠日誌の作成[新規実施校年1回：10月、既実施校(春日中、春日北中ブロック)年2回：5～6月、10月] ・睡眠と健康に関するアンケート調査[年2回：5～6月、10月] ・アンケート調査等の集計、解析及び報告書作成[7月、11月～3月] ・学校への調査データの提供[7月] ・リーフレット「みんなく すいみん教育」配布[新規実施校9～11月、既実施校4～6月] ・専門家による授業(小学校8校、中学校6校)[6月～11月] ・教員による授業実践[各校の計画による] ・眠育公開講座(家庭教育学級での実施)[8月]

■大項目 [3] 地域教育力の向上支援

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[3] 地域教育力の向上支援	3.4	(1)放課後子供教室（アンビニャス広場）の充実	4			◆全小学校区での放課後子供教室の継続的实施	・放課後子供教室の全小学校区での実施	○	地域教育課
						◆活動者への継続的な情報提供や研修会の実施	・「かすがアンビネット」の実施及びアンケートの満足度が全体の76%以上	○	
						◆放課後子供教室のPR動画作成（1校）	・PR動画作成1校	○	
		(2)地域の青少年育成活動の支援	3.0	①青少年育成市民会議の支援	4	◆六中生徒会サミット研修会、実践発表会等の共同実施と活動への支援	・六中生徒会サミット等のアンケートの満足度が全体の76%以上	○	地域教育課
				②子ども会活動等の支援	2	◆子ども会育成会連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援 ◆市内各子ども会活動への支援	・インリーダー研修参加者の次年度の子ども会役員就任率が76%以上 ・子ども会活動助成金の執行率が76%以上	△ △	
		(3)地域で子どもを育てる活動の促進	3			◆地域で子どもを育てる活動に関わる個人、団体等の情報共有や交流機会づくり	・地域で子どもを育てる交流会のアンケートの満足度が76%以上	×	地域教育課
						◆活動促進のための地域活動指導員による継続的な情報収集及び発信	・地域活動の訪問回数が当初の見込みの76%以上 ・情報誌「らいん」の年2回発行	○ ○	

2 施策の実施状況

中項目(1) 放課後子供教室（アンビシャス広場）の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎全小学校区での放課後子供教室の継続的实施 ◎活動者への継続的な情報提供や研修会の実施 ◎放課後子供教室のPR動画作成（1校）	◆全小学校区での放課後子供教室の継続的实施 - 全12小学校区において、放課後子供教室（アンビシャス広場）を継続して実施 - 開設場所 小学校、地区公民館等 - 開設延べ日数 557日 - 参加延べ人数 子ども 8,514人 - 参加延べ人数 大人 2,956人 ◆活動者への継続的な情報提供や研修会の実施 - 放課後子供教室（アンビシャス広場）関係者の研修会として、「かすがアンビネット」を開催 - 開催回数 2回 - 参加人数 第1回28人、第2回29人 - 満足度 第1回91.3%、第2回100%（アンケート集計結果より） ◆放課後子供教室のPR動画作成（1校） - 天神山小学校CS委員会の児童の協力を得て、動画作成及び校内放映を実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆放課後子供教室（アンビシャス広場） - 令和3年5月12日～6月20日 緊急事態宣言の発出に伴い、活動時間を20時までに制限 - 令和3年8月2日～8月9日 まん延防止等重点措置の適用に伴い、活動時間を20時までに制限 - 令和3年8月10日～8月19日 「福岡コロナ特別警報」の発動に伴い、事業を一部中止 - 令和3年8月20日～9月30日 緊急事態宣言の発出及び感染拡大状況に鑑み、事業を全部中止	《全小学校区での放課後子供教室の継続的实施》 ◎子どもたちの身近な場所で、体験・交流活動の機会を提供し、児童生徒の健全育成、地域の教育力の向上及び生涯学習の振興に寄与することができた。 ⇒人材発掘等、持続可能な活動に向けた取組を継続して行う必要がある。 《活動者への継続的な情報提供や研修会の実施》 ◎子どもたちの体験・交流活動の機会の創出及び事業の活性化並びに一関係者の「地域の子どもは地域で育てる」という意識の向上を図ることができた。 《放課後子供教室のPR動画作成（1校）》 ◎放課後子供教室事業への児童生徒の参加意欲を高めるとともに、教職員の事業理解の促進に資することができた。	◆放課後子供教室（アンビシャス広場）[通年] - 全12小学校区で継続実施 ◆「かすがアンビネット」事業 - 第1回 令和4年7月11日(月)開催 - 第2回 令和4年11月頃開催予定 ◆春日南小学校放課後子供教室のPR動画作成

中項目(2) 地域の青少年育成活動の支援

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
① 青少年育成 市民会議の 支援	◎六中生徒会サミット研修会、実践発表会等 の共同実施と活動への支援	◆六中・生徒会サミット研修会、発表会等の 共同実施と活動支援 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として、次の事業実施を支援 「六中・生徒会サミット」研修会 実施日 令和3年12月4日(土) 参加者 中学校生徒会役員代表者95人、 教員10人、参観その他29人 満足度 100% ((アンケート集計結果より) 「40周年記念青少年健全育成講演会」 実施日 令和4年1月22日(土) 参加者 106人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆「夏休みチャレンジ教室」及び「春日市六 中・生徒会サミット」実践発表会を中止	《六中・生徒会サミット研修会、発表会等の 共同実施と活動支援》 ◎市内中学校の生徒会の代表者が一堂に会 し、講義の受講や発表、意見交換等を行う 取組を支援することで、次代を担う青少年 の育成に寄与することができた。 ◎ゴルゴ松本氏による講演会「命の授業」の 開催を支援し、市民の青少年問題への関心 を深めることができた。	◆六中・生徒会サミット研修会、発表会等の 共同実施と活動支援 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として次の事業の実施を支援 「夏休みチャレンジ教室」 令和4年7月23日(土)開催 「六中・生徒会サミット」実践発表会 令和4年8月18日(木)開催予定 「六中・生徒会サミット」研修会 令和4年12月3日(土)開催予定 「青少年健全育成講演会」 令和5年1月28日(土)開催予定

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②子ども会活動等の支援	◎子ども会育成会連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援 ◎市内各子ども会活動への支援	◆子ども会育成会連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として、次の事業実施を支援 「インリーダー研修」 実施回数 7回 参加者数 39人(小学5年生)(16子ども会/38子ども会)(8小学校区/12小学校区) 「ジュニアリーダー研修」 実施回数 4回 参加者数 24人(小学6年生6人、中学1年生5人、中学2年生3人、中学3年生3人、高校1年生3人、高校2年生1人、高校3年生3人) ◆市内各子ども会活動への支援 ・活動支援のため助成金を交付 申請率 66.7% (26育成組織/39育成組織) 助成金執行率 46.0% (538,140円/1,170,000円) ・市ホームページに子ども会の年間活動予定を掲載 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆「インリーダー研修」、「ジュニアリーダー研修」とともに、緊急事態宣言の発出に伴い、9月の研修を中止 ◆子ども会行事の中止又は縮小に伴う助成金の返還 (9育成組織)	《子ども会育成会連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援》 ◎インリーダー研修修了者39人のうち、12人がジュニアリーダー研修に進んだ。 また、ジュニアリーダー研修修了者が、進学後も引き続きリーダー育成事業や地域活動に参画しており、事業の共同実施等を通して、子ども会や地域活動の活性化及び次世代リーダーの養成に寄与することができた。 《市内各子ども会活動への支援》 ◎子どもによる主体的な子ども会活動の促進に資することができた。 ◎他の子ども会の活動を参考にできるよう、市ホームページに市内の子ども会の年間活動予定を掲載し、子ども会活動の活性化を促した。	◆子ども会育成会連絡協議会が主催するリーダー育成事業の共同実施と活動への支援 ・活動支援のため補助金を交付 ・共催事業として次の事業の実施を支援 「インリーダー研修」 実施予定回数 8回 参加者数 50人(小学5年生)(18子ども会/38子ども会)(6小学校区/12小学校区) 「ジュニアリーダー研修」 実施予定回数 5回 参加者数 33人(小学6年生12人、中学1年生6人、中学2年生5人、中学3年生3人、高校1年生3人、高校2年生3人、高校3年生1人) ◆市内各子ども会活動への支援 ・活動支援のため助成金を交付

中項目(3) 地域で子どもを育てる活動の促進

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	△地域で子どもを育てる活動に関わる個人、団体等の情報共有や交流機会づくり ◎活動促進のための地域活動指導員による継続的な情報収集及び発信	◆地域で子どもを育てる活動に関わる個人、団体等の情報共有や交流機会づくり ・地域で子どもを育てる交流会の開催を企画 ◆活動促進のための地域活動指導員による継続的な情報収集及び発信 ・地域活動指導員による地域活動等の取材 ・地域活動指導員だより「らいん」の発行(年2回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆地域で子どもを育てる交流会の開催を令和4年1月26日(水)から次年度へ延期	《地域で子どもを育てる活動に関わる個人、団体等の情報共有や交流機会づくり》 ⇒・地域で子どもを育てる交流会は、参加者同士の交流の効果が期待できる対面形式での実施に向け、開催時期を次年度に延期した。 《活動促進のための地域活動指導員による継続的な情報収集及び発信》 ◎地域活動指導員による地域活動及び地域学校協働活動の取材や情報発信、運営支援等を通して、地域や学校との連携及び情報の共有化を深めることができた。	◆地域で子どもを育てる交流会 ・令和4年6月3日(金)開催 ◆活動促進のための地域活動指導員による継続的な情報収集及び発信 ・地域活動指導員による地域活動等の取材[通年] ・地域活動指導員だより「らいん」の発行[9月及び2月頃]

2 学校教育の充実

■大項目 [1] きめ細やかな指導体制の一層の充実

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1] きめ細やかな指導体制の一層の充実	3.6	(1) 確かな学力の向上と課題解決力の育成	4.0	① 教職員の指導力向上	4	◇ 小学校高学年教科担任制導入による授業改善の推進 ◆ A L T（外国語指導助手）、J T E（外国語活動指導員）による授業支援 ◇ I C Tを活用した授業実践の推進	・ 全国学力・学習状況調査等に成果が表れている	○	学校教育課
				② 基礎学力の定着	4	◆ 各小学校の放課後補充学習「まなびや春日」 ◇ 少人数学級編制による学力の定着 ◆ 問題データベースの活用による学力の定着 ◆ 家庭学習促進のための家庭との連携	・ I C Tを活用した授業実践報告が行われている	○	
		(2) いじめの防止等の徹底	3.5	① いじめの早期発見、早期対応、早期解決	4	◆ いじめの認知件数の推移や現状の把握 ◆ 学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化 ◇ ネットいじめに関する講座等の実施	・ いじめ案件の報告と月例報告の整合性が取れている	○	学校教育課
				② 校内指導体制の確立	3	◆ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる校内研修 ◆ 「いじめ防止基本方針」に基づく校内体制の強化、アンケート調査の実施と分析 ◇ 事例集の作成と共有による校内指導体制の充実	・ 講座を実施している	○	
		(3) 不登校児童生徒の支援の充実	3.5	① 不登校児童生徒の支援の充実	4	◆ マンツーマン指導体制による個に応じた支援 ◆ マイスクールにおけるコース制の実施 ◇ 小学校5年生、6年生、中学校1年生の35人以下学級編制、小学校高学年教科担任制による環境の変化等の軽減	・ 校内研修やいじめアンケートを実施し、情報共有がなされていると認められる	△	学校教育課
				② 専門職による積極的支援	3	◆ 不登校専任教員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育相談員の積極的活用による、保護者、児童生徒の支援	・ 月例報告で、年度途中における改善や解消の件数に成果が見られる	○	
							・ 専門職が提出する活動報告により、積極的な支援を行っていると思われる	△	

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1] きめ細やかな指導体制の一層の充実		(4)特別支援教育の充実	4			◇通級指導教室の運営体制の見直しによる指導の充実 ◇子ども発達支援室との連携による特別支援教育の強化・充実 ◆「わたしたちのことわかってくれる？」の活用による特別支援教育の理解の促進	・通級指導の運営体制の見直し協議が進んでいる	○	学校教育課
							・発達支援室が円滑に開始できたと認められる	○	
		(5)学校における働き方改革の推進	3			◇初任者指導方法等研究事業 ◆教職員働き方改革推進研究会 ◆働き方改革取組指針に基づく施策の推進 ◆「春日市部活動指導の指針」に基づく適切な指導時間の徹底 ◆部活動指導員の配置 ◇小学校高学年教科担任制導入による子どもと向き合う時間の確保	・初任者指導方法等研究事業の実施	○	教務課
							・教職員働き方改革推進研究会の実施	△	
・働き方改革取組指針に記載された施策の実施	○								
							・部活動指導員の配置により、教員の負担軽減に関する十分な成果が見られる	○	学校教育課

2 施策の実施状況

中項目(1) 確かな学力の向上と課題解決力の育成

小項目	令和3年度の当初計画（エデュケーションかすが） （◎：実施 △：未実施）	令和3年度の具体的な取組状況 （実施結果、実績値）	令和3年度の成果と課題（方向） （◎：成果 △：課題 ⇒：方向）	令和4年度の取組状況 （◇：新規 ◆：継続）
①教職員の指導力向上	◎小学校高学年教科担任制導入による授業改善の推進 ◎ALT（外国語指導助手）、JTE（外国語活動指導員）による授業支援 ◎ICTを活用した授業実践の推進	◆各学校における教科担任制の実施状況の調査と研修会における協議等の実施 ◆市ALT及び市JTEの配置 ◆ICTを活用した学習指導の実施 ・ICT活用に関する研修会の設定 ・「学びを止めないICT活用実践事例集」の作成	◎小学校5年生及び6年生における教科担任制の実施状況調査を年2回行い、校長会で協議を行ったり主幹教諭研修会で情報共有したりし、授業改善へ生かすことができた。 ◎各学校において、市ALTと市JTEの指導時間の設定を行い、計画的に実施することができた。 ◎各学校のICT担当者を対象とした「ICT活用委員会」の研修を行うとともに、各学校での研修会の実施、実践事例集の作成により、学習指導の充実へつなげることができた。	◆小学校5年生及び6年生における教科担任制の実施〔通年〕 ◆市ALT及び市JTEの配置〔通年〕 ◆ICT活用研修会の実施〔5月、2月〕 ◆ICT実践事例集の作成〔11月〕

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②基礎学力の 定着	◎各小学校の放課後補充学習「まなびや春日」 ◎少人数学級編制による学力の定着 ◎問題データベースの活用による学力の定着 ◎家庭学習促進のための家庭との連携	◆まなびや春日の各小学校での計画的な実施 ◆小学校5、6年生、中学校1年生における市独自の35人以下学級編制の全校実施と市少人数対応講師を配置 ◆問題データベースにある問題を活用した取組の実施 ◆各学校における家庭学習強化週間等の設定	◎教育相談員を中心に、各学校で実施日と対象者選定を行い、指導体制を整えて計画的に実施することができた。 ◎きめ細かな指導体制と少人数のゆとりある環境により、中1への緩やかな接続を実現することができた。 ◎問題データベースの問題を活用した学習指導や補充学習を各学校で充実させることができた。 ◎家庭と連携し、計画的に取り組む態度を育成することができた。	◆各学校における補充学習「まなびや春日」の実施[通年] ◆小学校5年生、6年生及び中学校1年生における市独自の35人以下学級編制の実施[通年] ◆問題データベースの活用[通年] ◆家庭学習の家庭との連携[通年]

中項目(2) いじめの防止等の徹底

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①いじめの早期発見、早期対応、早期解決	◎いじめの認知件数の推移や現状の把握 ◎学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化 ◎ネットいじめに関する講座等の実施	◆校内いじめ問題対策委員会の開催の徹底 ・アンケート調査の実施(毎月) ◆アンケート調査・活用(毎月) ◆SCを活用した校内研修等の実施(小学校年1回・中学校年3回) ・SSWを活用した校内研修等の実施(適時)	◎校内いじめ問題対策委員会の開催により、学校におけるいじめ問題への組織的指導体制を整えることができた。 ◎アンケートを基に対象者へ聞き取りを行い、早期発見、早期対応へ結び付けることができた。 ◎SC、SSWを活用した校内研修の実施により、教員の危機管理意識等を高めることができた。	◆校内いじめ問題対策委員会実施の徹底(月1回) ◆アンケート調査・活用(毎月) ◆スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる校内研修等の実施(小学校年1回・中学校年3回)
②校内指導体制の確立	◎スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる校内研修 ◎「いじめ防止基本方針」に基づく校内体制の強化、アンケート調査の実施と分析 ◎事例集の作成と共有による校内指導体制の充実	◆いじめの認知件数 ・小学校 61件 中学校 66件 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆いじめ問題連絡協議会(中止)	◎いじめ防止基本方針に基づくいじめの防止等のための有効な対策を検討することができた。 ⇒学校にいじめの報告について、徹底させる。	◆学校、家庭、地域、関係機関との協力体制の強化 ・いじめ防止等対策推進委員会[11月] ・いじめ問題連絡協議会[5月]

中項目(3) 不登校児童生徒の支援の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 →：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
① 不登校児童生徒の支援の充実	◎マンツーマン指導体制による個に応じた支援 ◎マイスクールにおけるコース制の実施 ◎小学校5年生、6年生、中学校1年生の35人以下学級編制、小学校高学年教科担任制による環境の変化等の軽減	◆月例報告、実態調査等による分析及び報告(毎月) ◆赴任者研修(各学校で実施)、不登校対策推進会議(3回)、不登校担当者会議(1回)、専門スタッフ会議(3回)の実施 ◆調理実習、ピアサポート、世の中見学、職場体験等の実施 ◆在宅制児童生徒への学習支援 小学生4人、中学校5人 配信回数339回 ◆マイスクール保護者会の中で、「安心な進路選択について」の講話を実施 ◆スポーツ交流会の実施(5回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆筑紫地区合同進路説明会が中止となったため、市独自で実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆赤ちゃん先生クラス(中止) ◆にこにこキャンプ等体験事業(一部中止、再掲)	◎調査・分析を活かし、今後の具体的支援対策につなげることができた。 ◎各種会議・研修会の実施により、学校組織としての支援方法等を情報共有することができた。 ◎体験活動を通して、自ら自分の生活を見つめ直し、自己肯定感を高めることができた。 ◎学校が学習状況を把握することで、個に応じた指導と、よりきめ細かな支援ができた。 ◎多種多様なコースを持つ学校や充実した生徒支援を行っている学校を知ってもらうことができ、進路選択に有用な情報収集の場となった。 ◎スポーツを通して、他校の生徒と交流できることが刺激となり、コミュニケーション能力の育成の機会となった。	◆不登校児童生徒の実態分析及び提言[毎月] ◆赴任者研修、不登校対策推進会議、不登校担当者会議、専門スタッフ会議[適時] ◆体験活動プログラム等による自立・学校復帰支援[適時] ◆在宅制による学習支援[随時] ◆筑紫地区合同進路説明会[7月] ◆スポーツ交流会[7回] ◆赤ちゃん先生クラス[9月、1月]
② 専門職による積極的支援	◎不登校専任教員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育相談員の積極的活用による、保護者、児童生徒の支援	◆教育相談員 小学校2校に1人配置 ◆不登校専任教員 各中学校に1人配置 ◆SSW 2中学校ブロックに1人配置 ◆SC 教育支援センターに配置 (小学校・中学校は、県費配置) ◆不登校兆候への早期対応等	◎専門スタッフを配置することにより、個別対応を図ることができた。 ◎SC, SSWを活用し、専門的な見地から児童生徒への関わりを持つことができた。 △不登校者数が増加した。 (令和2年度266人、令和3年度301人)	◆教育相談員、不登校専任教員、SSW、SCの積極的活用[随時] ◆早期対応と効果ある取組の徹底

中項目(4) 特別支援教育の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎通級指導教室の運営体制の見直しによる指導の充実 ◎子ども発達支援室との連携による特別支援教育の強化・充実 ◎「わたしたちのことわかってくれる？」の活用による特別支援教育の理解の促進	◆特別支援教育士を市教委に配置し、体系的に相談及び検査を実施した ・検査件数 312件 ◆要配慮の児童生徒の増加に伴い、特別支援教育支援員を派遣し、校内体制の維持及び学習面の定着を図った。 ・小学校 特別支援教育支援員38人 ・中学校 特別支援教育支援員12人 ◆個人の障がい特性及び課題に応じ、特別支援学級や通級指導教室等で、個に応じた指導を実施 ◆通常学級においても必要に応じ個別の教育支援計画及び指導計画を策定し、必要に応じ教育支援委員会への提出を求めた。	◎多くの児童生徒について、課題を共有し、専門的に対応することができた。 ⇒対象者の増加に伴う検査後の必要なフォロー体制の検討 ◎特別支援教育支援員を配置することにより、特別支援学級の児童生徒に加え、通常学級にも増加している要配慮児童生徒に対し、個別の対応を行った。 ⇒個に応じた指導に必要な支援員の配置検討 ◎特別支援学級在籍者及び通級指導教室利用者のほか、必要と認められる児童生徒について個別の支援計画及び指導計画を各学校で策定 ⇒通級による指導に必要な教員の適正配置の要望	◇通級指導教室の自校指導・巡回指導を検討し、実施する。〔3月〕 ◆特別支援教育コーディネーターへの研修〔年3回〕

中項目(5) 学校における働き方改革の推進

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎:実施 △:未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎:成果 △:課題 ⇒:方向)	令和4年度の取組状況 (◇:新規 ◆:継続)
	◎初任者指導方法等研究事業	◇フォローアップ事業として下記の事業を実施。 ・Y G 性格検査の実施 ・初任者アンケートの実施 ・スクールカウンセラーによる面談の実施	◎Y G 性格検査やスクールカウンセラーによる面談の実施により、初任者の課題を把握することができ、丁寧なフォローを行うことができた。	◆初任者指導方法等研究事業
	◎教職員働き方改革推進研究会	◆教職員働き方改革推進研究会の開催(年1回)	△新型コロナウイルスの影響で、研究会が年1回しか開催できなかった。 ⇒研究会の実施内容等を再検討し、効果的に実施できるよう見直す。	◆教職員働き方改革推進研究会[年3回]
	◎働き方改革取組指針に基づく施策の推進	◆令和2年4月に導入した勤怠管理システムによる、勤務状況と長時間勤務の実態把握 ◆夏季休業及び冬季休業期間に学校閉庁日を設定(8月10日～8月15日、12月28日及び1月4日) ◆勤務時間外の電話をメッセージによる対応とすることを徹底し、勤務時間管理の意識向上を図った。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆県補助事業を活用し、学校における感染症対策業務を担うスクール・サポート・スタッフを全校に配置	◎勤怠管理システムにより、正確な勤務状況や長時間勤務の実態を把握することができ、超過勤務削減の取組につながった。 ◎夏季及び冬季休業期間中の学校閉庁日が定着したことで、教職員の休暇取得を促進することができた。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◎スクール・サポート・スタッフを配置したことで、教職員は本来の業務やオンライン授業等の新型コロナウイルスの影響で増大した業務に専念することができた。	◆働き方改革取組指針に基づく施策の推進[通年] ◆教職員の長時間勤務の実態把握[毎月] ◆学校閉庁日の設定[夏季、秋季及び冬季] ◆音声対応電話設置による学校閉庁時刻の徹底[通年]
	◎「春日市部活動指導の指針」に基づく適切な指導時間の徹底	◆各中学校から毎月提出される部活動練習実績表を集計し、活動頻度が指針の基準を超過している部活動がある中学校の校長に対し、各部活動の活動内容を把握し、適宜、指導や是正を行うよう通知した。	◎「春日市部活動指導の指針」に基づく適切な指導時間を徹底することができた。	◆部活動練習実績表の集計[通年] ◆部活動指導員研修会の実施[6月][7月]
	◎部活動指導員の配置	◆5中学校に対して10人の部活動指導員を配置した。	◎部活動指導員を配置し、部活動指導体制の充実及び顧問教員の部活動指導に係る負担軽減を図ることができた。	
	◎小学校高学年教科担任制導入による子どもと向き合う時間の確保			

■大項目 [2] 児童生徒の心と体づくりの推進

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の実施状況 (◇：新規、◆：継続)	達成度「4」の要件	成果	担当課
[2] 児童生徒の心と体づくりの推進	3.0	(1)豊かな人間性の育成	2.5	①豊かな人間性の育成	3	◆児童生徒の地域活動等における体験活動と連動した道徳教育の展開 ◇討議型道徳授業の展開 ◆社会規範意識を高める指導の推進	・全体指導計画等で、的確に実施している事が認められる ・教材「これだけは身につけたい 礼儀・作法読本」の活用	○ △	学校教育課
				②人権感覚と実践力の向上	2	◆「社会科基礎カリキュラム」、県副読本等「かがやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用した「中学校ブロック授業交流会」 ◆定期的な体罰実態調査の実施と分析	・中学校ブロック授業交流会が実施できている ・定期的に体罰実態調査を実施している	× △	
		(2)体力の向上と食育の推進	3.5	①体力・運動を通じた心と体づくり	4	◆体力・運動能力調査結果を踏まえた取組の工夫 ◆体力向上プラン（一校一取組） ◆体力アップチャレンジKASUGA	・体力向上の取組により、体力・運動能力調査結果等から児童生徒の体力向上に十分な成果が見られる	○	学校教育課
				②望ましい食習慣の定着	3	◆感謝の心を育てる弁当の日 ◆給食（食文化・産地・献立等）を活用した食育 ◆食に関する指導研修会の充実	・感謝の心を育てる弁当の日の全校実施 ・給食献立を活用した食育の実施 ・食に関する指導研修会におけるアンケート結果「有意義」90%以上	△ ○ ×	教務課

2 施策の実施状況

中項目(1) 豊かな人間性の育成

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の実施状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の実施状況 (◇：新規 ◆：継続)
① 豊かな人間性の育成	◎児童生徒の地域活動等における体験活動と連動した道徳教育の展開 ◎討議型道徳授業の展開 ◎社会規範意識を高める指導の推進	◆全教育活動において道徳教育を計画し、各学校で実施 ◆新学習指導要領における「考え、議論する道徳」の学習指導の実施 ◆社会規範意識を高める指導の各学校での計画と実施	◎各学校において、全教育活動で組織的かつ計画的に実施することができた。 ◎道徳科において、自己の生き方を見つめながら、多様な視点から話し合う学習指導を計画的に位置付けることができた。 ◎外部講師等を招聘した規範意識教育を計画的に実施することができた。 △中学校においては、礼儀・作法読本の教材の活用を教育課程内外でどのように位置付けるのか全体計画の中に位置付けておく。	◆児童生徒の地域活動等における体験活動と連動した道徳教育の展開 [通年] ◆考え、議論する道徳の学習指導 [通年] ◆社会規範意識教育の計画的な実施 [通年]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②人権感覚と実践力の向上	△「社会科基底カリキュラム」、県副読本等「かがやき」「あおぞら」「あおぞら2」を活用した「中学校ブロック授業交流会」 ◎定期的な体罰実態調査の実施と分析	◆「社会科基底カリキュラム」の全校実施と県副読本等活用による学習指導の計画的な実施 ◆児童生徒の人権を尊重する教職員言動チェックシートによる体罰によらない指導の確認と啓発を実施 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆「中学校ブロック授業交流会」(中止)	◎各学校における社会科基底カリキュラム及び県副読本等活用による年間指導計画を作成し、計画的に実施することができた。 △社会科基底カリキュラムの改訂を行う。 ◎児童生徒の人権を尊重する教職員の姿を登校から下校まで具体的な姿で示し、確認とともに啓発を行うことができた。	◆社会科基底カリキュラムの実施[通年] ◆県副読本等を活用した計画的な学習指導の実施[通年] ◆児童生徒の人権を尊重する教職員言動チェックシートの実施[11月]

中項目(2) 体力の向上と食育の推進

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①体力・運動を通じた心と体づくり	◎体力・運動能力調査結果を踏まえた取組の工夫 ◎体力向上プラン(一校一取組) ◎体力アップチャレンジKASUGA	◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 ・全国平均を上回る種目(各々全8種目) 小学校5年生男子 7種目 小学校5年生女子 4種目 中学校2年生男子 8種目 中学校2年生女子 8種目 ◆体力向上プランの策定及び実施 ・小学校12校、中学校6校 ◆チャレンジカード(小学校) ・習慣的に運動を実施した(チャレンジカードを4枚以上達成した)児童 710人	◎体力向上プランに示した一校一取組を中心に、各学校で重点的な取組の充実を図った。	◆体力向上プラン(一校一取組) ◆体力アップチャレンジKASUGA

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②望ましい食習慣の定着	◎感謝の心を育てる弁当の日 ◎給食(食文化・産地・献立等)を活用した食育 ◎食に関する指導研修会の充実	◆「弁当の日」小学校11校、中学校4校実施 《小学校》 ◆とれたてうまかばい給食の実施 [年10回、新食材「しろうり」の使用] ◆地産地消推進会議[年1回] 《中学校》 ◆給食アンケートを生徒対象に実施 ◇小学校6年生対象、中学校給食紹介動画の制作 《共通》 ◆かすが「食育だより」の発行[年2回] ◆小中学校食物アレルギー対応検討会の開催 [年1回] ◆食に関する指導研修会 [オンライン開催] 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆中学校給食保護者試食会[中止] ◆給食保護者試食会の代替として、中学校給食紹介動画(保護者用)を制作 ◆学校給食料理コンクール[中止] ◆県補助事業を活用した、県産畜水産物を使用した給食の実施	◎多くの学校が弁当の日を実施し、家庭と連携した食育の取組となった。 △コロナ禍のため、弁当の日を実施しなかった学校があった。 《小学校》 ◎JA筑紫産の野菜を給食で使用し、生産者の紹介をすることで、食に対する関心及び感謝の心を育むことができた。 ◎地産地消会議を実施することで、とれたてうまかばい給食の円滑な実施ができた。 《中学校》 ◎アンケート結果を給食献立の検討に生かすことができた。 ◎小学生向け動画は、学校で全小6年生に視聴してもらい、中学校給食への理解につながる効果的な手法だった。 《共通》 ◎「食育だより」により家庭や地域への食育の啓発ができた。 ◎食物アレルギーヒヤリハット事例や小中の情報共有ができた。 ◎食に関する指導研修会をオンライン開催とすることで、遠方の講師による研修を行うことができた。 △研修後のアンケートを実施しなかったため、効果の検証が不十分となった。 ⇒中学校給食への保護者の理解促進のための手法を、今後も検討していく必要がある。	◆弁当の日の実施 [各学校で年1～2回予定] 《小学校》 ◆とれたてうまかばい給食の実施 [年11回予定] [新食材「とうもろこし」の使用] ◆市学校給食料理コンクール[8月書面開催] ◆地産地消推進会議[年1回予定] 《中学校》 ◆給食アンケートを生徒対象に実施 ⇒対象者を増やして実施 ◆中学校給食保護者試食会[中止] ◆中学校給食紹介動画の制作 (保護者向け、小6年生向け) 《共通》 ◆かすが「食育だより」の発行[年2回予定] ◆小中学校食物アレルギー対応検討会[年1回予定] ◆市ホームページの充実 ⇒小学校給食の説明、JA筑紫野菜の紹介動画など ◆食に関する指導研修会 [オンライン開催予定]

■大項目 [3] 児童生徒の市民性の育成

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[3] 児童生徒の市民性の育成	4.0	(1)市民性の育成	4			◆本市独自の地域連携カリキュラムを生かした社会に開かれた教育課程の推進と児童生徒の社会性や自立心の育成 ◆市民性自己内評価（通知表添付）の実施	・通知表の市民性自己評価が上がっていると認められる	○	学校教育課

2 施策の実施状況

中項目(1) 豊かな人間性の育成

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎本市独自の地域連携カリキュラムを生かした社会に開かれた教育課程の推進と児童生徒の社会性や自立心の育成 ◎市民性自己内評価（通知表添付）の実施	◆各学校の地域連携カリキュラムの見直しと計画的な実施 ◆各学校における市民性に関する自己評価の実施と通知表（通信簿）への添付の実施	◎地域連携カリキュラムを計画的に見直し、各学校において地域コーディネーターと連携して実施することができた。 ◎各学校で評価項目を作成し、市民性に関する自己評価を実施することができた。	◆地域連携カリキュラムの実施 [通年] ◆地域連携カリキュラムの見直し[2月] ◆各学校における市民性の自己評価の実施 [学期末]

■大項目 [4] 安全・安心な教育環境づくり

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[3]安全・安心な教育環境づくり	3.0	(1)安心して学び、暮らせる環境の整備	3.0	①学校、家庭、地域、関係機関等の連携による安全体制の構築	4	◆関係機関との連携による通学路安全点検	・危険箇所における改善又は改善方針を出している	○	学校教育課
				②学校規模、地域連携の視点からの校区再編	1	◆校区の在り方の検討	・校区についての方針案を検討することができている	×	
				③学校施設の計画的な改修の推進	4	◇春日南中学校大規模改修工事（第1期） ◇春日北中学校航空騒音防止対策工事 ◆大谷小学校管理棟大規模改修工事 ◆春日北小学校給食室大規模改修工事	・工事を安全かつ適正に施工し、完了する。	○	教務課
		(2)自助意識、安全対応能力の向上	3			◆校内避難訓練の実施や地域防災訓練への参画 ◆交通安全教室の実施 ◆熱中症予防講習（中1、中2）、救急救命講習（中1）の実施	・各種訓練や安全教室の学校におけるめあてが達成できている	△	学校教育課

2 施策の実施状況

中項目(1) 安心して学び、暮らせる環境の整備

小項目	令和3年度の当初計画（エデュケーションかすが） （◎：実施 △：未実施）	令和3年度の具体的な取組状況 （実施結果、実績値）	令和3年度の成果と課題（方向） （◎：成果 △：課題 ⇒：方向）	令和4年度の取組状況 （◇：新規 ◆：継続）
①学校、家庭、地域、関係機関等の連携による安全体制の構築	◎関係機関との連携による通学路安全点検	◆各小中学校からの報告を基にした警察及び道路管理課と合同の通学路安全点検を行い、現地確認及び道路の整備等による通学路の安全確保を行った。	◎「春日市通学路安全プログラム」に基づき、学校からの危険箇所を抽出し、警察及び道路管理者を含めた協力体制に下、必要な改善措置を講じることができた。 ⇒安全確保のための道路等のハード整備が困難な箇所については、現場の状況に応じた対応を個別に検討し、指導する必要がある。	◆関係機関との連携による通学路安全点検 [9月]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②学校規模、地域連携の視点からの校区再編	◎校区の在り方の検討	【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆関係者を含めた審議会が開催できなかった。	◎校区再編事業について、令和元年度から開始し、令和17年度に実施した校区再編の効果や、現在生じている課題を基に再度校区再編の在り方を検証した。 △新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、審議会の開催に至らなかった。 ⇒必要に応じ、審議会を開催する。	◆校区再編について検証[通年]
③学校施設の計画的な改修の推進	◎春日南中学校大規模改修工事（第1期） ◎春日北中学校航空騒音防止対策工事 ◎大谷小学校管理棟大規模改修工事 ◎春日北小学校給食室大規模改修工事	◆春日南中学校の特別教室棟（北側）及び普通教室棟（南側）の外壁改修、内部改修 ◆春日北中学校の放送設備更新 ◆大谷小学校の管理棟の外壁改修、内部改修 ◆春日北小学校給食室の増築及び空調整備 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆小学校9校（春日小、春日東小、春日原小、春日西小、須玖小、春日南小、春日野小、日の出小、白水小）の給食室に空調設備を整備 ◆全小中学校の特別教室等に無線LAN環境を整備	◎春日南中学校の老朽化した校舎の改修を行い、教育環境の充実を図ることができた。 ◎春日北中学校の老朽化した空調設備、建具等の改修を行い、教育環境の改善を図ることができた。 ◎大谷小学校の老朽化した校舎の改修を行い、教育環境の充実を図ることができた。 ◎春日北小学校の単独調理場を増築し、また、調理場の空調を整備することで、学校給食衛生管理基準に基づいた施設環境を整備することができた。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◎小学校9校の給食室に空調設備の整備が完了し、コロナ禍における夏季休業期間や猛暑日における調理室内の温度が改善され、衛生環境及び調理員の安全を確保することができた。 ◎全小中学校の特別教室等における無線LAN整備が完了し、情報教育環境を拡充することができた。	◆春日南中学校屋内運動場棟大規模改修工事[6～1月] ◇小中学校2校トイレ改修工事[4～10月] ◇小学校5校遊具改修工事[5～2月] ◇中学校4校空調設備改修工事[5～10月]

中項目(2) 自助意識、安全対応能力の向上

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎校内避難訓練の実施や地域防災訓練への参画 ◎交通安全教室の実施 △熱中症予防講習（中1、中2）、救急救命講習（中1）の実施	◆全学校において、避難訓練、交通安全教室を実施した。 ◆地域防災訓練に参加（春日南中）、保護者と共に引き渡し訓練の実施（各小学校） 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆熱中症予防講習、救急救命講習は実施できなかった。	◎各種訓練はおおむね実施できた。 △熱中症予防講習の一部及び救急救命講習は消防署の協力が必要であるため、コロナ以前の状況になることが必要 ⇒実施方法の検討	◆交通安全教室の実施[4月～] ◆避難訓練や地域防災訓練への参画（通年）

3 多様な学びの支援

■大項目 [1] 多様な学びの機会の情報提供

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度 of 取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1] 多様な学びの機会の情報提供	4.0	(1) 多様な学びの機会の情報提供	4			◆多様な媒体を通じた学習機会の継続的な情報提供	・ 情報提供の頻度の増加	○	地域教育課

2 施策の実施状況

中項目 (1) 多様な学びの機会の情報提供

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎多様な媒体を通じた学習機会の継続的な情報提供	◆多様な媒体を通じた学習機会の継続的な情報提供 ・ 担当公式twitterの活用 ・ メールによる学習情報の提供(社会教育関係団体) ・ 各講座における関連学習情報の提供(家庭教育学級、KASUGAライフスタイル講座) ・ 市民図書館における特集コーナーの開設 ・ オンラインでの講座の実施	◎社会教育関係団体や各講座受講者に対し、関連する講座の情報提供により、実際に他の講座に参加するなど、学習機会の広がりがみられた。 ◎オンラインで講座を実施することで、外出ができないコロナ禍においても、学習機会を提供することができた。 ⇒多様な媒体を通じた情報提供の継続。	◆多様な媒体を通じた学習機会の継続的な情報提供 [通年] ・ メールやSNSを活用した学習情報の提供 ・ 各講座における関連学習情報の提供 ・ オンラインでの講座の実施

■大項目 [2] つながりを通じる学習の環境づくり

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[2] つながりを通じる学習の環境づくり	3.7	(1) 学習を始めるきっかけづくり	3			◆ 弥生の里児童画大賞展の実施 ◆ 学べる天文台「星の館」の円滑な運営 ◆ 実行委員会形式による成人式の円滑な式典運営	・ 弥生の里児童画大賞展応募総数の増加 ・ （学べる天文台「星の館」）コロナ対策を講じた事業運営の実施 ・ （学べる天文台「星の館」）ボランティア登録者の増（対前年度比5%） ・ コロナ対策を講じた円滑な式典開催及び運営 ・ 実行委員による主体的な式典の企画、運営の実施	× ○ ○ ○ ○	地域教育課
		(2) 地域の活動につながる学習の機会の提供	4			◆ まなびのきっかけをつくり、地域への関心を高める講座の開催 ◆ 市民の交流と地域活動への参加の促進	・ 講座参加率 定員の76%以上 ・ 講座後のアンケート結果から見る意欲の向上割合76%以上	○ ○	地域教育課
		(3) 団体への支援と協働	4			◆ 社会教育関係団体の活動の持続性と活性化への支援	・ 社会教育関係団体の活動の持続性と活性化に向けた支援、情報提供の継続	○	地域教育課

2 施策の実施状況

中項目(1) 学びを始めるきっかけづくり

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎弥生の里児童画大賞展の実施	◆弥生の里児童画大賞展 ・テーマ「わくわくをかこう～わたしのゆめ～」 ・出品数 3,547点(うち市内学校からの応募 1,446点) ・入選・入賞 277点(うち市内受賞107点) ・展示会 令和3年12月7日(火)～12月19日(日) ・授賞式 令和3年12月11日(土) (ふれあい文化センタースプリングホール) ・30周年記念賞の設置(ふれあい文化センター館長賞、市民図書館長賞、奴国の丘歴史資料館名誉館長賞) ・審査委員を含めた事業のあり方検討会の実施(計2回)[4月、5月] 【新型コロナウイルス感染症対応】 ・展示会：土日に監視員を配置し、入場者の入退出管理、定期的な消毒・換気、距離を空けての鑑賞の周知を徹底した。 ・授賞式：座席の指定、消毒・換気の徹底、時間の短縮等を行った。 ・30周年記念ワークショップ(中止)	《弥生の里児童画大賞展》 ◎コロナ禍においても、前向きな気持ちで自由に表現できるような募集テーマに設定したことで、テーマから発想を広げ、自分の好きなものをいきいきと表現した作品が集まり、子どもたちの豊かな想像力や独自性を高めることができた。 △前年度の応募者数4,284点に対し、今年度は3,547点と、前年度を下回る点数となった。 (市内児童からの応募の減少) ◎コロナ禍でも受賞者には、自身の作品が選ばれたという喜びや自己肯定感を、また来場した市民には、子どもたちの生き生きとした絵画作品に触れる機会を提供した。 ◎審査委員を含めた事業のあり方検討会を行い、順位付けの意味合いが強いコンクールに加え、絵の上手さに関係なく「絵を楽しむ」ことを重視したワークショップを展開していくという方向性を得た。 ⇒コンクールとワークショップ(市内児童を対象に絵を楽しむことを重視する)の2本柱での事業展開 ⇒市内児童に対する応募促進	◆弥生の里児童画大賞展[12月] ・募集期間 令和4年7月12日(火)～9月16日(金) ・テーマ「こんなまちにすみたいな」 ・展示会 ①ふれあい文化センターギャラリー：令和4年12月8日(木)～12月18日(日) ②地区公民館(上位入賞者居住地区)：2月 ・授賞式 令和4年12月10日(土) ・放課後子供教室におけるワークショップの実施[通年]
	◎学べる天文台「星の館」の円滑な運営	◆学べる天文台「星の館」(前年度) ・来館者数 8,701人(7,664人) ・ボランティア登録者数 52人(49人) ・開館日数 143日(135日) ※令和3年8月13日～9月26日の間、21日臨時休館 ・リニューアルオープン10周年記念イベントの実施 ①ボランティアスタッフ等による思い出の写真や寄せ書きの掲示[4月] ②国立天文台スタッフとのリモートイベント、記念品配付等実施[10月16日]	《学べる天文台「星の館」》 ◎専門知識を有する事業者に委託し、施設を有効に活用した事業展開を実施することで、青少年の天体への興味関心を高めることができた。 ◎幅広い年代のボランティアの活躍により、青少年だけでなく様々な世代に対し、天文に関する学びの機会を提供できた。また同時に世代間交流も図ることができた。 ◎休館中でもWEBで「おうちで星の館」を開設することで、自宅でも学べる機会の提供ができた。 ◎10周年記念イベントの開催及び広報	◆学べる天文台「星の館」[通年] 【通常開館日】 ・毎週金、土、日曜日(12月28日～1月4日を除く。) 【特別開館(通常開館外)】 ・令和4年8月12日(金)ペルセウス座流星群観望会 ・令和4年11月8日(火)皆既月食 ・令和4年12月14日(水)ふたご座流星群観望会

	◎実行委員会形式による成人式の円滑な式典運営	【新型コロナウイルス感染症対応】 ・来館者の把握(受付票)、消毒・換気の徹底 ・感染拡大状況に応じた入場制限等の実施 ・休館中には星の館WEBページに「おうちで星の館」のページ開設 ◆実行委員会形式による成人式 ・実行委員会11回実施(人権学習会含む) ・実施日 令和4年1月10日(月) ・実行委員数 12人 ・参加者 958人(対象者の71.8%) ・成人年齢引き下げに伴い、令和4年度からの成人式についてウェブサイト、市報等で周知。 【新型コロナウイルス感染症対応】 二部制、事前申込制の導入やスタッフの増員などの感染拡大防止措置を徹底して、実施した	活動(市報9月15日号特集記事)を通じ、星の館の認知度の向上が図られた。また、記念イベントがボランティアスタッフの活躍の場となった。 《実行委員会形式による成人式》 ◎実行委員が主体的に式典を企画し、運営することで、成人して社会に参画することを意識する契機となり、実行委員自身が成長を実感する場を提供することができた。 ◎新型コロナウイルス感染拡大の中、二部制、事前申込制の導入やスタッフの増員などにより、無事に式典を開催した。 ⇒会場変更後の円滑な事業実施の継続 ⇒令和4年4月1日の成人年齢引き下げに伴い、4月1日に成人となる18歳、19歳への対応	◆実行委員会形式による成人式[1月] ・日程 令和5年1月9日(月・祝) ・会場 福岡県立複合施設(クローバープラザ)※令和2年度より会場変更 ・実行委員会 令和4年8月17日(水)～ ・4月1日に成人となる市内在住の18歳、19歳に対し、啓発物を送付[5月]
--	------------------------	--	--	--

中項目(2) 地域の活動につながる学びの機会の提供

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎まなびのきっかけをつくり、地域への関心を高める講座の開催 ◎市民の交流と地域活動への参加の促進	◆地域活動学習講座(中央公民館事業) ・新規講座「KASUGAライフスタイル講座～セカンドライフを考える～」を開講 ・対象者 今後の地域活動等の主力と期待される50歳代、60歳代を主な対象者と想定(募集時に限定なし) ・目的 退職後等の第二の人生設計と併せて、地域活動等への気付きを育み、実践へとつなぐ ・受講生 24人(定員30人) ・開催時期・回数 11月～3月、全4回 ・受講生へ各種団体等の活動情報を提供 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆受講者及び関係者が会場定員の1/2となるよう定員(30名)を設定 ◆検温、手指消毒、換気、マスク着用の徹底 ◆接触機会軽減のためグループワークを中止。	◎従来、平日開催が主であった講座を土曜日の午後としたため、対象者と見込んだ50歳代、60歳代が多く受講した。 受講生年齢 40歳～70歳代 40歳～60歳代の割合 19人 79% ◎受講生アンケートの結果、9割の受講生が、今後のセカンドライフに向けた意欲が高まったと回答し、既に活動を開始したと回答する受講生も見られた。 ◎講師が紹介した春日まちづくり支援センター・ぶどうの庭のイベントに参加する受講生もあり、地域活動につながっている。	◆「KASUGAライフスタイル講座～セカンドライフを考える～」 ・全5回、各回土曜日、[7月～8月] ・受講生 23人(定員30人) ・受講生年齢 50歳～80歳代 50歳・60歳代 17人 74% ・受講生へ各種団体等の活動情報を提供 ・令和3年度受講生追調査(アンケート7月)

中項目(3) 団体への支援と協働

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の実績(実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の実績(取組状況) (◇：新規 ◆：継続)
	◎社会教育関係団体の活動の持続性と活性化への支援	◆社会教育関係団体登録数 19団体 ・市施設の使用料の免除(半額)及び市報掲載等の広報による活動の支援 ◆補助金交付実績 ・社会教育関係団体7団体及び社会教育関係団体連絡協議会 計8団体 ・補助金総額 10,655,043円 ◆学習情報等の提供 ・社会教育関係団体代表者等のメールアドレスの取得と学習情報、申請様式の提供 ・提供情報 17件 ◆ICT活用状況の把握 ・「社会教育関係団体におけるICT(情報通信技術)活用アンケート」実施[7月] ・集計結果を団体と共有化、メールを活用した情報提供、スマホ体験会の案内 ◆地域活動学習講座における団体紹介 ◆人権研修講師謝金補助金交付実績 ・実施団体(登録団体) 10団体 ・補助金総額 62,700円 (対象：登録団体及び小中学校PTA) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆補助団体8団体のうち6団体は、事業の一部を中止したため、補助金の一部返還等が生じた。	◎メールを活用した学習情報等の提供により、迅速な情報提供が可能となり、団体活動の活性化に寄与した。 △ICT活用アンケートの結果から、会員間の情報伝達にICTが活用されていない団体も見受けられた。 ⇒ICTを活用した団体活動の活性化への積極的な働きかけが必要 △会員の高齢化や減少 ⇒団体の活動紹介や課題解決への助言など、団体の持続性を意図した支援が必要	◆社会教育関係団体等への支援 ・社会教育関係団体登録 19団体 ・活動支援 ・市施設の使用料の免除(半額)による活動の支援 ・市報の掲載等広報活動の支援 ・補助金交付(7団体) 社会教育関係団体6団体及び社会教育関係団体連絡協議会 ・メールを活用した学習情報等の提供 ・団体からの相談と助言 ・登録団体への人権研修実施(講師謝金補助) ◇分かりやすい情報提供 ・団体登録申請事務の手引きの作成と配付

■大項目 [3] 図書館活用の推進

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[3] 図書館活用の推進	3.0	(1)市民図書館の充実	3.0	①生涯の学びとくらしに役立つ地域の情報拠点としての図書館機能の充実	3	◆親しみやすく利用しやすい窓口 ◆市民の本棚としての本や雑誌などの充実 ◆調べものカウンターの相談体制の充実	・市民図書館の利用に関するアンケートの数値の上昇	○	地域教育課
							・施設や職員に関する総合的な評価	○	
							・本や雑誌の充実度	○	
							・調べものカウンターの充実度及び認知度	△	
				②子どもの読書活動の推進	3	◆児童カウンターの相談体制の充実	・市民図書館の利用に関するアンケートの数値の上昇	○	
							・児童カウンターの充実度及び認知度	△	
		(2)図書館活用による学びの支援	3.0	③誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	3	◆電子図書館の利用促進 ◆移動図書館たんぼぼ号の利用促進 ◇Web版市民図書館の利用に関するアンケートの実施	・市民図書館の利用に関するアンケートの数値の上昇	○	地域教育課
							・電子図書館の充実度及び認知度	△	
							・移動図書館の利用者増	○	
							・Web版市民図書館の利用に関するアンケートの導入	○	
		(2)図書館活用による学びの支援	3.0	①図書館活用による多様な学びの支援	3	◆春日市図書館を使った調べる学習コンクールの普及	・コンクール応募者数の増加	△	地域教育課
							・ファーストブック事業の参加率98%以上	○	
							・講座受講後のボランティア活動率の上昇	△	
							・図書館サポーター登録者の増加	×	
		(3)学校図書館の充実	3.0	②人がつながる本のある広場	3	◇新たな活動内容による図書館サポーターの新規募集 ◆夜の図書館など市民参加型事業の実施 ◆健康講座など連携事業の実施	・市民図書館の利用に関するアンケートの数値の上昇	△	地域教育課
							・市民図書館利用者満足度の上昇	○	
				①学校図書館の学習センター、情報センター、読書センター機能の充実	3	◇授業での学校図書館の活用を促進するための支援資料収集 ◆小学校司書及び中学校図書館支援員の全校配置	・授業で図書館を使った回数及び教科の増加	△	地域教育課
							・小中学生の読書率の上昇（全国学力・学習状況調査、児童・生徒質問紙調査項目「授業以外の読書の時間の調査」小学6年生、中学3年生）	△	

2 施策の実施状況

中項目(1) 市民図書館の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①生涯の学び とくらしに 役立つ地域 の情報拠点 としての図 書館機能の 充実	◎親しみやすく利用しやすい窓口 ◎市民の本棚としての本や雑誌などの充実 △調べものカウンターの相談体制の充実	◆親しみやすく利用しやすい窓口 ・感染防止対策を講じながら、円滑な対応を行った。 ◆市民の本棚としての本や雑誌などの充実 ・図書や雑誌の購入を計画的に行い、蔵書の充実を図った。 ◆調べものカウンターの相談体制の充実 ・感染防止対策によりスタッフが常駐しない運営体制に変更した。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆市民図書館の臨時休館 ・8月10日から9月13日まで休館 ◆感染拡大時には、館内滞在時間や調べものカウンターでの相談時間を制限した。	◎職員の親切さ、親しみやすさ (90.1%) 市民図書館の総合評価 (96.2%) ◎十分な本や雑誌が揃っている (84.2%) △調べものカウンターの充実度 (66%) ・感染防止対策により調べものカウンターの相談体制に制限を設けたが、認知度は昨年度より向上した。(昨年度 60.8% +5.2%増) ⇒感染対策を講じながら調べものカウンターにスタッフが常駐できるような運営体制の検討 ⇒調べものカウンターのサービスの充実 (「市民図書館の利用に関するアンケート」から「よい」「まあまあよい」を集計)	《市民図書館の充実》 ◆電子図書館の利用促進[通年] ・利用登録時に電子図書館登録を推奨[6月] ◇読書バリアフリーコーナーの設置[10月] ・カウンター前に新たにコーナーを設置 ◆SNSを活用した図書館情報の発信 ・Twitter、Youtubeに加え、LINEの運用を開始[7月]
②子どもの読 書活動の推 進	△児童カウンターの相談体制の充実	◆児童カウンターの相談体制の充実 児童フロアにはスタッフが常駐していたが、業務上カウンターを離れる状況が多く、相談体制として不十分だった。 ◆児童カウンター司書への相談しやすさ (53.0%)	△児童カウンターの相談体制の充実 (53%) ・児童カウンターの充実度・認知度は昨年よりは上昇した。(昨年度51.1%) ⇒カウンターが不在にならない運営体制の検討及びカウンター以外のスタッフとの連携 (「市民図書館の利用に関するアンケート」から「よい」「まあまあよい」を集計)	《子どもの読書活動の推進》 ◆児童カウンターの相談体制の充実[通年]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
③誰もが図書館サービスを受けられる環境整備	△電子図書館の利用促進 ◎移動図書館たんぼぼ号の利用促進 ◎Web版市民図書館の利用に関するアンケートの実施	◆電子図書館の利用促進 新規登録者 406人 貸出回数 1,913冊 ◆移動図書館車たんぼぼ号の運行(19ヵ所) 利用者数 8,088人 ◇Web版市民図書館アンケートの導入(2月) 回答数 270件(うちWeb回答 93件) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆電子書籍の追加購入(567件) ◆布製ソファ(21台)・スツール(4台)の張替え(1～3月) ◆室内用オゾン発生装置(8台)の設置(2月) ◆図書除菌機の増設(2月) ◆図書館休館中は、移動図書館を運休し、配本車でリクエスト本を配送	◎市民図書館利用満足度(94.5%)。感染対策を講じながら、市民が安心して図書館を利用できるよう円滑な運営を行った。 《電子図書館》 △電子図書館の充実度及び認知度(39.2%) ・電子図書館の認知度は昨年度より+6.4%上昇したが、利用件数は増加しなかった。 ⇒電子書籍のコンテンツの充実 ⇒電子図書館未使用者に対する操作方法の講習や体験会の開催、PRの強化 《移動図書館》 ◎移動図書館車は市内19ヵ所を巡回し、コロナ禍で外出が困難な人へのサービス提供につながった。 ◎布製ソファ等々の張替えや室内用オゾン発生装置等の設置により、感染拡大防止対策を補強できた。 (「市民図書館の利用に関するアンケート」から「よい」「まあまあよい」を集計)	◆電子図書館の利用促進[通年] ※再掲 ・利用登録時に電子図書館登録を推奨[6月]

中項目(2) 図書館活用による学びの支援

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①図書館活用による多様な学びの支援	◎春日市図書館を使った調べる学習コンクールの普及	◆図書館を使った調べる学習コンクール ・応募総数 19作品 うち2点を全国コンクールに推薦し、優秀賞と奨励賞を受賞 ◆調べる学習講座の実施 ・7月30日、31日、8月1日に実施 学年別に3つのクラスに分け、計23人参加	《図書館を使った調べる学習コンクール》 ◎受賞作は、全国において優秀賞、奨励賞と昨年度より高好評価を得ている △応募者数が19作品となり、昨年度の28作品を下回った。(募集時期が、図書館の休館に重なったため) 《調べる学習講座》 ◎参加者が図書館を使って調べかたのコツを学ぶことができた ⇒コンクールの普及方法の検討(出張サービスや動画配信など) ⇒学校図書館との連携を強化し、児童生徒のコンクールへの参加を促進する	《図書館活用による多様な学びの支援》 ◆市民図書館を使った調べる学習の普及[7～11月] ◇市の啓発事業に合わせた特集展示の実施[通年]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②家庭・地域における子どもの読書活動の推進	◎ファーストブック事業の実施 ◎読書ボランティア講座の実施	◆集団による4ヶ月健診中止に伴い、絵本の郵送のみ実施(856組) ◆読書ボランティア講座の実施 ・読み聞かせ講座 初心者向け 全2回 28人 学校対象 全2回 31人 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆校内での感染拡大を受け、学校内での読書ボランティア活動を制限した。	《ファーストブック事業》 ◎4ヶ月健診会場での読み聞かせ等は実施できなかったが、絵本の郵送を通し、親子のコミュニケーションツールとしての絵本の有効性について啓発することができた。 《読書ボランティア講座》 ◎読書ボランティア講座を通して、子どもの読書推進にかかわる人材を養成することができた。	《子どもの読書活動の推進》 ◆対面によるファーストブック事業の再開[4月] ◇リフレッシュ理科教室・理科読(りかどく)の企画実施[8月]
③人がつながる本のある広場	△新たな活動内容による図書館サポーターの新規募集 ◎夜の図書館など市民参加型事業の実施 ◎健康講座など連携事業の実施	◆夜の図書館 12月4日、5日実施 内容：落語ライブ、バックヤードツアー、理科読かすが、ハンドベル演奏上映 他 ◆連携事業の実施 ・郷土講座 10月24日実施 参加者 35名 ・健康講座 11月9日実施 参加者 9名 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆新たな活動内容による図書館サポーターの新規募集 ・図書館サポーター講座(中止)	《図書館サポーター》 △感染拡大防止のため、日常的なサポーター活動は中止した。 ⇒感染対策を行い、活動の再開に努める。 《夜の図書館》 ◎開催日を2日間に分けるなど感染防止対策を講じ、事業を実施することができた。 《連携事業》 ◎他の所管と連携し、コロナ禍でも各種講座を実施することができた。	◆図書館サポーター活動の再開[10月]

中項目(3) 学校図書館の充実

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①学校図書館の学習センター、情報センター、読書センター機能の充実	◎授業での学校図書館の活用を促進するための支援資料収集 ◎小学校司書及び中学校図書館支援員の全校配置	◆司書による授業支援 ・小学校 684件 ・中学校 83件(9教科) ◆小学校司書及び中学校図書館支援員の全校配置 ・小学校に学校司書を配置 週5日5時間勤務 ・中学校に学校図書館支援員を配置 年150日以上 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆校内での感染拡大を受け、図書館の閉館や学年別の利用にするなど利用制限を実施。	△授業での図書館利用頻度や教科の増加は見られなかった。 ⇒授業で活用できる資料数の増加のため学校間相互貸借の運用開始し、更なる学校図書館の活用を促進する。	《学校図書館の充実》※小項目なし ◆学校における子どもの読書活動推進事業の実施[4月、11月] ◆授業での学校図書館活用支援[通年] ◇学校間相互貸借の運用開始[通年] ・学校間図書等の相互貸借要綱の作成[4月]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②学校における子どもの読書活動の推進	◎学級文庫、図書館だよりなど学校における子どもの読書活動推進事業の実施	◆多くの学校が学級文庫を活用し、全校で図書館だよりを毎月発行した。 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆学校図書館閉館の代替として、学級文庫の冊数や交換頻度を増やし対応した。	◎感染拡大防止のため、多数の学校で昼休みの図書館利用の制限をしたが、利用制限分の補完として、学級文庫の冊数や交換頻度を増やし対応した。 △児童生徒の読書率は低下している。 令和元年 小6 80.1% 中3 56.3% 令和3年 小6 76.0% 中3 55.8% ⇒感染対策を行いながら、読書推進活動を継続する。	◆学級文庫の活用に加え、従来どおりの図書館利用(学年毎による利用制限等の撤廃)を再開予定。

4 文化財の保存・活用

■大項目 [1] 文化財の記録・保存

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[1]文化財の記録・保存	3.5	(1)文化財の記録・保存	4			◇須玖岡本遺跡総括報告書刊行のための準備 ◆史跡須玖岡本遺跡の地中レーダー探査及び確認調査 ◆遺跡発掘調査及び報告書作成	・須玖岡本総括報告書刊行のための準備として資料整理を行う。	○	文化財課
							・地中レーダー探査を5箇所、確認調査を2箇所で行う。	○	
							・中白水遺跡及び原遺跡の発掘調査を実施する。また、受託で依頼があった場合はできるだけ早期に対応する。	○	
		(2)文化財の調査・研究	3			◆文化財専門委員による指導・助言の活用 ◆文化財の市指定化の推進 ◆民俗文化財調査専門員による聞き取り調査及び民具、古文書等の情報収集	・文化財専門委員会を開催し、助言を適宜施策に反映させる。	○	文化財課
							・文化財の中で特に貴重なものについては、新たに市指定とする。	○	
							・各地区の年中行事（宮座等）の実態調査を行う。また、その調査過程で民具、古文書等の情報収集を併せて行う。	△	

2 施策の実施状況

中項目(1) 文化財の記録・保存

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎須玖岡本遺跡総括報告書刊行のための準備 ◎史跡須玖岡本遺跡の地中レーダー探査及び確認調査 ◎遺跡発掘調査及び報告書作成	◆遺物の整理作業、実測及び写真撮影を実施 ◆文化財専門委員会に進捗報告後、助言を得た。 ◆奈良文化財研究所の協力のもと地中レーダー探査実施(5箇所) ◆元年度に実施した地中レーダー探査結果を基に、確認調査を実施(59.1㎡) ◆史跡地の防災工事に併せて確認調査を実施(岡本7丁目) ◆遺跡発掘調査の実施(窓口審査1,587件、試掘調査51件、本調査8件) ◆平成元年～平成3年度分簡易報告書及び令和2年度春日市文化財年報を刊行	◎遺構図の整理及び甕棺等遺物の実測に取り組むことができた。 ◎春日北小学校6年生との協働で、地中レーダー探査を実施できた。 ◎岡本地区25次調査において、王族墓南側の範囲を確定できた。 ◎盤石地区8次調査において、住居跡9件などを検出した。 ◎遺跡発掘調査により市の歴史的資料の保存に寄与することができた。 ◎簡易報告書及び年報の刊行により、調査の概要を周知することができた。 ⇒過年度分の簡易報告書を刊行し、通常の発掘調査報告書を刊行する必要がある。	◆遺構図の整理、土器・石器等の実測等の作成[通年] ◆地中レーダー探査を2箇所で実施[5月] ◆令和3年度の地中レーダー探査地について、調査を実施[岡本地区26次調査(5～8月)、須玖坂本B遺跡9次調査(7～8月)、岡本地区9次調査(12～3月)] ◆発掘調査5件実施[8月現在] ◆過年度分の簡易報告書、昨年度の発掘調査を中心に整理作業実施。令和3年度春日市文化財年報刊行[8月]

中項目(2) 文化財の調査・研究

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎文化財専門委員による指導・助言の活用 ◎文化財の市指定化の推進 ◎民俗文化財調査専門員による聞き取り調査及び民具、古文書等の情報収集	◆文化財専門委員の活用[通常委員会1回、須玖岡本遺跡調査研究部会2回、水城跡整備部会2回、考古部会1回、歴史・民俗部会1回] ◆豊臣秀吉奉行人及び白水池に関する古文書(2点)について、調査研究を実施し、市指定文化財とした(2月) ◆関係団体への聞き取り調査により、春日市保有の古文書、民俗文化財及び市内各地区に残る有形・無形文化財に関する確認を実施 ◆民俗資料4件(8点)及び自然史系歴史資料(1点)の寄贈を受けた。	◎岡本地区25次調査及び盤石地区8次調査を、文化財専門委員の助言を踏まえて調査できた。 ◎総括報告書の整理作業を、文化財専門委員の助言を踏まえて進めることができた。 ◎古文書(2点)を市指定文化財とすることができた。 ◎武末家文書等の所蔵に至る経緯について、詳細な聞き取り調査ができた。各地区に残る各種文化財に関する取材メモの写しを手することができた。 ◎市所蔵の資料に類例がなく、今後の学習資料等としての活用が見込まれる資料を新たに保有することができた。 △民俗文化財保有・利用経験者の高齢化に伴い、聞き取り調査が困難になってきている。 ⇒引き続き、市所蔵資料の整理・リスト化を進める必要がある。また、各地区・各家に残る文化財を把握し、リスト化を進める必要がある。	◆文化財専門委員の活用[通常委員会(12月)、須玖岡本遺跡調査研究部会(8月・1月)、水城跡整備部会(2回予定)、考古部会(1回予定)] ◆ウトグチ瓦窯跡出土品の市指定化に向けた調査研究[通年] ◆民具・古文書・その他民俗文化財の収集及び調査研究[通年]

■大項目 [2] 文化財の整備・活用

※成果（○：達成できた。 △：一部達成できた。 ×：達成できなかったもしくは未実施。）

施策（大項目）	達成度	中項目	達成度	小項目	達成度	令和3年度の取組 （◇：新規、◆：継続）	達成度「4」の要件	成果	担当課
[2] 文化財の整備・活用	3.8	(1) 文化財への理解の促進	3.5	① 文化財等の周知	4	◆市報、ウェブサイト、SNS等の活用 ◆ガイドブック・パンフレット等の作成・活用	・来館者のためにデジタルサイネージを導入する。	○	文化財課
							・市報、ウェブサイト、SNS等の媒体を使って、広く情報を発信する	○	
							・ガイドブック・パンフレット等を分かりやすい内容に改定し、広報等に幅広く利用する。	○	
				② 文化財等への関心を高める機会の提供	3	◆奴国の丘フェスタの開催 ◆資料館事業の充実 ◆学習コンテンツ「おうちde資料館」の充実 ◇奴国の丘歴史資料館名誉館長の設置	・奴国の丘フェスタについて、コロナ禍でも安全で安心な事業を計画し、実施する。	×	
							・考古・民俗企画展、わくわく歴史体験、やきもの作り教室、プラカすが歴史散歩などの事業について、内容を工夫して参加者の満足度を高める。	○	
		(2) 文化財を保存・活用するための環境整備	4			◇須玖岡本遺跡の公有地化事業の準備 ◇水城跡の公有地化事業の実施 ◇特別史跡水城跡整備基本計画に基づく整備事業 ◆奴国の丘歴史資料館の空調設備改修工事及び屋上防水改修工事	・須玖岡本遺跡の公有地化事業の準備として測量及び補償調査を行う。	○	文化財課
							・水城跡の公有地化を円滑に行う。	○	
							・大土居水城跡の樹木伐採及び整備設計並びに天神山水城跡の樹木伐採を計画的に行う。	○	
		(3) 市民との連携・協働による文化財の継承	4			◆ボランティアの活用と育成 ◆学校教育支援の推進 ◆自治会や他団体との連携の推進	・月1回実施している定例会の内容を充実させ、ボランティアの更なる活用と育成を図る。	○	文化財課
							・学校と連携して、施設・史跡見学や勾玉づくりなどの体験活動を積極的に行う。	○	
							・自治会や他団体と連携して、出前講座や事業支援等の取り組みを積極的に行う。	○	

2 施策の実施状況

中項目(1) 文化財への理解の促進

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
①文化財等の 周知	◎市報、ウェブサイト、SNS等の活用 ◎ガイドブック・パンフレット等の作成・活用	◆市報かすがへの文化財関連記事掲載(イベント周知19回、その他13回) ◆市ウェブサイトでのイベント情報掲載(随時) ◆資料館へのデジタルサイネージの新規設置(8月) ◆SNSによる情報発信(ツイッター54回) ◆文化財ガイドブックを更新し、小中学校及び自治会等への配布実施(3,000部)	◎市報かすがやウェブサイトを活用した積極的な情報発信や各種パンフレット等の作成により、本市の文化財の魅力を継続的に発信することができた。 ◎デジタルサイネージの設置により、来館者に市内外の文化財に係る事業を発信することができた。 ◎SNSにより、資料館事業を身近に感じてもらえる情報発信を行うことができた。 ⇒引き続き効果的な情報発信の手法及び内容について検討する必要がある。	◆市報、ウェブサイト当の活用[通年] ◆SNSによる情報発信[通年] ◆各種啓発パンフレット等の作成・活用[通年]

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度の具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
②文化財等への関心を高める機会の提供	△奴国の丘フェスタの開催 ◎資料館事業の充実 ◎学習コンテンツ「おうちde資料館」の充実 ◎奴国の丘歴史資料館名誉館長の設置	◆奴国の丘歴史資料館での文化財展示(来館者4,160人) ◆ウトグチ瓦窯展示館での文化財展示(来館者596人) ◆やきもの作り教室(年間7回 110人) ◆わくわく歴史体験(年間5回 96人) ◆図書館別置展「資料館事業の紹介」(通年) ◆民俗企画展「はかる」(1月29日～3月13日、来館者921人) ◆考古企画展「発見!! 弥生の権」のオンライン展示の実施(9月1日) ◆一般団体による施設見学(11回159人) ◆学習コンテンツ「おうちde資料館」の内容更新(1回) ◆奴国の丘歴史資料館名誉館長による本市への助言、指導及び意見交換等(16回) ◆奴国の丘歴史資料館名誉館長による発表、講演及びマスコミ対応等(10回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆奴国の丘フェスタの開催延期 ◆考古企画展「発見!! 弥生の権」のオンライン展示の実施(9月1日) ◆やきもの作り教室の開催中止(9月分) ◆コロナによる臨時休館(奴国の丘歴史資料館及びウトグチ瓦窯展示館、8月10日～9月30日)	◎奴国の丘歴史資料館や図書館での常設展示や企画展を計画的に開催することにより、本市文化財について広く周知することができた。 ◎オンラインによる考古企画展を実施し、コロナ禍においても、本市文化財の魅力を効果的に発信することができた。 ◎奴国の丘歴史資料館名誉館長から本市への指導助言により、調査及び展示等の質の向上を図ることができた。 ◎学習コンテンツ「おうちde資料館」に市の歴史に関する内容を追加することで、広く周知することができた。 ◎奴国の丘歴史資料館名誉館長により、発表、講演及びマスコミ対応等を行うことで、本市文化財の魅力を効果的に発信することができた。 △コロナによる臨時休館(8月～9月)及び改修工事による休館(10月～12月)のため、来館者数は減少した。 ⇒引き続き文化財への関心を高めるための事業を実施していく必要がある。	◆奴国の丘フェスタ[9月24日] ◆奴国の丘歴史資料館での文化財展示[通年] ◆図書館別置展[通年] ◆ウトグチ瓦窯展示館での文化財展示[通年] ◆やきもの作り教室[年6回] ◆わくわく歴史体験[年3回] ◆ブラカすが歴史散歩[年2回] ◆考古企画展「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～ 春日市の日本遺産」[8月27日～10月2日] ◆民俗企画展[1月21日～3月5日] ◆施設見学の受け入れ及び出前講座の実施[通年] ◆学習コンテンツ「おうち de 資料館」の運用・周知[通年] ◇トピック展「市指定化記念展～古文書から見る春日市～」[4月29日～5月29日]来館者705人 ◇トピック展「令和3年度発掘調査成果パネル展」[4月16日～5月29日]

中項目(2) 文化財を保存・活用するための環境整備

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度 of 具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎須玖岡本遺跡の公有地化事業の準備 ◎水城跡の公有地化事業の実施 ◎特別史跡水城跡整備基本計画に基づく整備事業 ◎奴国の丘歴史資料館の空調設備改修工事及び屋上防水改修工事	◆須玖岡本遺跡における用地測量調査及び用地取得補償調査を実施 ◆水城跡史跡等の用地買い上げの実施(天神山1丁目地内) ◆大土居・天神山水城跡の樹木伐採(計42本)を実施 ◆奴国の丘歴史資料館の空調設備改修工事及び屋上防水改修工事を実施 ◆職員による史跡地の定期点検(通年)	◎須玖岡本遺跡における公有地化事業の準備を進めることができた。 ◎天神山水城跡の用地買い上げ事業の実施により、文化財の保護を図ることができた。 ◎大土居・天神山水城跡の樹木伐採を実施し、環境整備を行うことで、史跡地の見学環境の維持を図ることができた。 ⇒今後も継続して、遺跡等の活用促進のための整備を実施する必要がある。	◇須玖岡本遺跡用地買い上げの実施(2件)[2月] ◆大土居・天神山水城跡の樹木伐採の実施[通年] ◆委託による史跡地の清掃、草刈、樹木消毒等の実施[通年] ◆奴国の丘歴史資料館の防犯カメラ(5基)新規設置[9月] ◆職員による史跡地の定期点検[通年]

中項目(3) 市民との連携・協働による文化財の継承

小項目	令和3年度の当初計画(エデュケーションかすが) (◎：実施 △：未実施)	令和3年度 of 具体的な取組状況 (実施結果、実績値)	令和3年度の成果と課題(方向) (◎：成果 △：課題 ⇒：方向)	令和4年度の取組状況 (◇：新規 ◆：継続)
	◎ボランティアの活用と育成 ◎学校教育支援の推進 ◎自治会や他団体との連携の推進	◆ガイドボランティア及びやきものボランティアとの協働(通年) ◆従来の「ガイドボランティア」から「奴国の丘サポーター」に名称及び活動内容を改め、募集を実施(3月) ◆学校による施設見学(19回1,362人、内オンライン1回75人) ◆学校への出前講座の実施(8回706人、内オンライン5回623人) ◆自治会への出前講座(1回40人) ◆自治会事業(文化祭)における文化財ブース展示(1回) ◆関係団体等との意見交換会を実施(年4回) 【新型コロナウイルス感染症対応】 ◆オンラインによる見学及び出前講座の実施	◎奴国の丘サポーターの活動内容を、資料館イベント及び学校授業等の運営補助とし、従来(ガイドボランティア)よりも参画しやすいものに制度変更して募集を実施した(応募者数23名) ◎オンラインによる施設見学及び出前講座を新たに実施するなど、コロナ禍においても、学校教育支援を効果的に行うことができた。 ◎自治会への出前講座及び事業支援を実施し、本市文化財の魅力を効果的に発信することができた。 ⇒引き続き、見学及び出前講座等の内容を工夫し、学校教育支援を推進する必要がある。 ⇒引き続き、ボランティアとの協働及び自治会並びに他団体との連携を図り、文化財行政への市民参画を推進する必要がある。	◆奴国の丘サポーター及びやきものボランティアとの協働[通年] ◇奴国の丘サポーターの登録(23名)[4月] ◇奴国の丘サポーターへの研修の実施[年6回] ◆施設見学の受け入れ及び出前講座の実施[通年] ◆関係団体等との意見交換会を実施[年4回]

第5 令和3年度コミュニティ・スクール進捗状況評価

1 評価の目的

- (1) 各学校において現状確認の機会とし、取組のアイデアや改善点を見出すこと。
- (2) 評価について学校運営協議会で議論を行い、方向性の共通理解を図ること。

2 評価方法

- (1) 各小中学校の学校運営協議会委員、教職員を対象に4段階で評価をしています。
(評価対象期間は、令和3年4月～令和4年3月)
- (2) 評価の観点とは、次に示すとおりです。

I 共育文化醸成の進捗状況

- 1 コミュニティ・スクールの組織と運営
- 2 学校の目標・課題の四者による共有化
- 3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築
- 4 コミュニティ・スクールの認知

II 開かれた教育活動等の進捗状況

- 1 地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組
- 2 学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)取組
- 3 地域に開かれた学校情報

III コミュニティ・スクールによる成果

- 1 学校経営・運営の進捗状況
- 2 子どもの育ちの状況
- 3 保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況

- (3) 学校運営協議会における学校関係者評価に合わせて実施することで、提示された学校の自己評価や保護者、地域、児童生徒アンケート等の客観的なデータに基づいた評価としています。
- (4) 評価の実効性・客観性を高めるため、電子申請による評価を実施し、評価者の拡大(委員以外の保護者や地域住民)を勧奨しています。

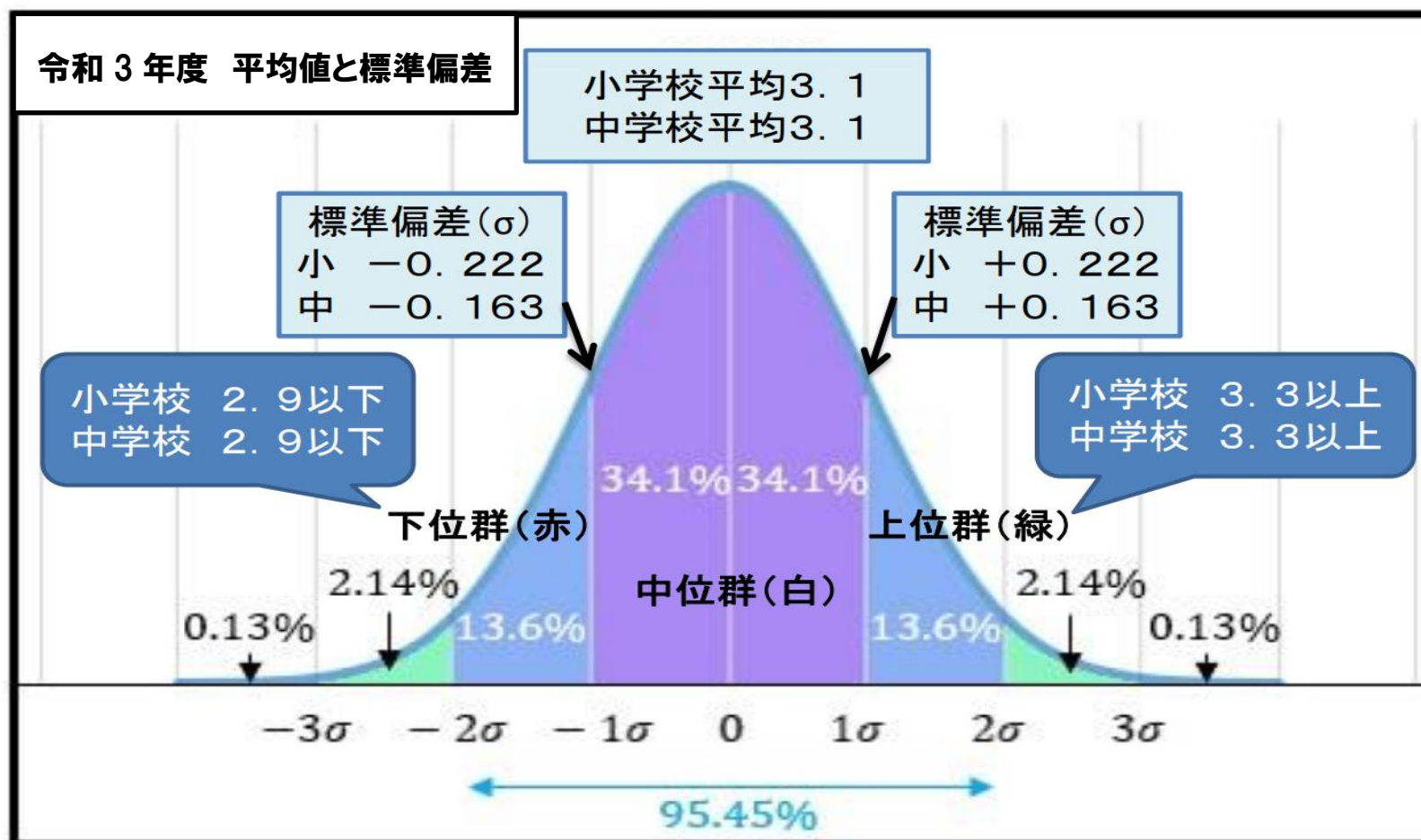
3 評価結果の算出方法

(1) 各評価小項目及び評価小項目全体の平均値、さらに、その標準偏差を集計しています。

(2) (平均+標準偏差)以上のグループを「上位群」の小項目とします。(令和3年度後期は、小学校3.3以上、中学校3.3以上、令和2年度後期は、小学校3.2以上、中学校3.2以上)

(平均-標準偏差)以下のグループを「下位群」の小項目とします。(令和3年度後期は、小学校2.9以下、中学校2.9以下、令和2年度後期は、小学校2.8以下、中学校2.8以下)

それ以外のグループを「中位群」の小項目とします。(「上位群」は網掛け、「下位群」は白抜きで記載)



4 評価結果表

(1) 小学校

4段階評価[4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまりそうは思わない 1：思わない]

I 共育文化醸成の進捗状況	R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 コミュニティ・スクールの組織と運営	2.8	2.8	0.0
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.2	3.1	0.1
② 学校運営協議会に子どもたちが参加していますか。	2.3	2.4	▲ 0.1
③ 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	2.9	3.0	▲ 0.1
2 学校の目標・課題の四者による共有化	3.2	3.0	0.2
① 学校運営協議会で学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.3	3.2	0.1
② 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.2	3.0	0.2
③ 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.3	3.2	0.1
④ 保護者と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.0	2.8	0.2
⑤ 自治会（地域）と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.2	3.0	0.2
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築	3.4	3.3	0.1
① 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.5	3.4	0.1
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.3	3.3	0.0
③ 管理職や教職員は、地域の行事や活動等に協力的ですか。	3.2	3.2	0.0
④ 地域コーディネーターは、学校と地域とのつなぎ役になっていますか。	3.5	3.4	0.1
4 コミュニティ・スクールの認知	3.0	2.9	0.1
① CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.2	3.2	0.0
② CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	2.9	2.7	0.2
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者へ周知されていますか。	3.0	2.9	0.1
④ CSの目的や仕組み、取組について、地域・市民（保護者以外）へ周知されていますか。	3.0	2.7	0.3
II 開かれた教育活動等の進捗状況	R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組	3.2	3.1	0.1
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）	3.2	3.1	0.1
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）	3.2	3.1	0.1
③ 子どもと地域の人が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）	3.1	3.0	0.1
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）	3.1	3.0	0.1

2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組	3.1	3.0	0.1
① 保護者や地域による学校支援等（含む、小学校での放課後子ども教室）の取組が進められていますか。	3.3	3.0	0.3
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.0	3.0	0.0
③ 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.1	3.0	0.1
3 地域に開かれた学校情報	3.4	3.2	0.2
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.2	0.2
② 学校は、教育情報を保護者・地域へ発信していますか。	3.4	3.3	0.1
③ 学校運営協議会は、協議の内容等を保護者や地域、教職員へ発信していますか。	3.3	3.1	0.2
④ 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.3	3.2	0.1

4段階評価[4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまりそうは思わない 1：思わない]

Ⅲ コミュニティ・スクールによる成果	R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 学校経営・運営の進捗状況	3.2	3.0	0.2
① 学校の考え・方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.1	3.0	0.1
② 学校を支援・応援する声・提言・行動の増加につながっていますか。	3.1	3.0	0.1
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.3	3.1	0.2
2 子どもの育ちの状況	3.0	2.9	0.1
① 学力向上につながっていますか。	3.1	2.9	0.2
② 体力向上につながっていますか。	2.9	2.8	0.1
③ 市民性の育成（地域に対する関心、地域情報に対する関心）につながっていますか。	3.0	3.0	0.0
④ 問題行動等の解消につながっていますか。	2.9	2.7	0.2
3 保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況	2.9	2.8	0.1
① 基本的生活習慣づくりに対する保護者の関心につながっていますか。	3.1	2.9	0.2
② 家庭学習の習慣形成に対する保護者の関心につながっていますか。	3.0	2.9	0.1
③ 学校以外での子どもの学びや体験・交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.8	2.8	0.0
④ 地域の行事や活動等への子どもの参加を保護者が促すことにつながっていますか。	2.9	2.9	0.0
⑤ 保護者の自治会等地域行事等への参加促進につながっていますか。	2.8	2.7	0.1
全体結果	3.1	3.0	0.1
標準偏差	0.222	0.207	

(2) 中学校

4段階評価[4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまりそうは思わない 1：思わない]

I 共育文化醸成の進捗状況		R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 コミュニティ・スクールの組織と運営		3.1	3.0	0.1
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。		3.2	3.2	0.0
② 学校運営協議会に子どもたちが参加していますか。		2.9	2.8	0.1
③ 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。		3.1	3.0	0.1
2 学校の目標・課題の四者による共有化		3.1	3.0	0.1
① 学校運営協議会で学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。		3.2	3.2	0.0
② 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。		3.1	2.9	0.2
③ 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。		3.2	3.1	0.1
④ 保護者と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。		3.0	2.8	0.2
⑤ 自治会（地域）と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。		3.2	3.0	0.2
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築		3.3	3.4	▲ 0.1
① 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。		3.4	3.4	0.0
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。		3.2	3.4	▲ 0.2
③ 管理職や教職員は、地域の行事や活動等に協力的ですか。		3.3	3.3	0.0
④ 地域コーディネーターは、学校と地域とのつなぎ役になっていますか。		3.4	3.3	0.1
4 コミュニティ・スクールの認知		3.1	3.0	0.1
① CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。		3.2	3.2	0.0
② CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。		3.1	2.9	0.2
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者へ周知されていますか。		3.1	2.9	0.2
④ CSの目的や仕組み、取組について、地域・市民（保護者以外）へ周知されていますか。		3.1	2.8	0.3
II 開かれた教育活動等の進捗状況		R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組		3.0	3.0	0.0
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）		3.0	3.0	0.0
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）		2.9	2.9	0.0
③ 子どもと地域の人が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）		3.0	3.0	0.0
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）		3.1	3.1	0.0

2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組	3.3	3.1	0.2
① 保護者や地域による学校支援等（含む、小学校での放課後子ども教室）の取組が進められていますか。	3.2	2.9	0.3
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.4	3.3	0.1
③ 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.2	3.1	0.1
3 地域に開かれた学校情報	3.3	3.3	0.0
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.4	0.0
② 学校は、教育情報を保護者・地域へ発信していますか。	3.4	3.4	0.0
③ 学校運営協議会は、協議の内容等を保護者や地域、教職員へ発信していますか。	3.2	3.1	0.1
④ 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.3	3.2	0.1

4段階評価[4：そう思う 3：概ねそう思う 2：あまりそうは思わない 1：思わない]

Ⅲ コミュニティ・スクールによる成果	R3 年度後期	R2 年度後期	前回との差
1 学校経営・運営の進捗状況	3.2	3.0	0.2
① 学校の考え・方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.1	3.0	0.1
② 学校を支援・応援する声・提言・行動の増加につながっていますか。	3.1	3.0	0.1
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.3	3.1	0.2
2 子どもの育ちの状況	3.0	2.9	0.1
① 学力向上につながっていますか。	3.0	2.9	0.1
② 体力向上につながっていますか。	2.8	2.7	0.1
③ 市民性の育成（地域に対する関心、地域情報に対する関心）につながっていますか。	3.1	3.1	0.0
④ 問題行動等の解消につながっていますか。	3.0	3.0	0.0
3 保護者の子ども・学校・地域等への関心の状況	2.9	2.9	0.0
① 基本的生活習慣づくりに対する保護者の関心につながっていますか。	3.0	2.9	0.1
② 家庭学習の習慣形成に対する保護者の関心につながっていますか。	3.0	2.8	0.2
③ 学校以外での子どもの学びや体験・交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.9	2.9	0.0
④ 地域の行事や活動等への子どもの参加を保護者が促すことにつながっていますか。	3.0	2.9	0.1
⑤ 保護者の自治会等地域行事等への参加促進につながっていますか。	2.8	2.8	0.0
全体結果	3.1	3.0	0.1
標準偏差	0.163	0.196	

5 評価結果の考察

(1) 小学校

① 全体的傾向

- ・ 「令和2年度後期」と比較して、全体結果の平均が3.0から3.1に0.1ポイントの伸びが見られる。
- ・ 標準偏差の数値も0.207から0.222と若干ではあるが増加傾向にあり、各小項目間のバラツキが若干広がっている。
- ・ 39の評価小項目を比べると、Ⅰ－Ⅰ－②「学校運営協議会への児童参加」と③「実働推進組織等の取組状況」の2項目のみが減少し、他の37項目は、増加もしくは変化なしという結果である。

このことから、新型コロナウイルス感染症が継続している中、若干ではあるがコミュニティ・スクールの取組みは改善傾向にあると考える。「コミュニティ・スクールの歩みを進める」ために、学校運営協議会をオンラインで開催したり、「できることを、できるやり方を工夫して実施する」という考えで、各学校及び地域が教育課程内外の地域学校協働活動に取り組んだ成果の表れであると考ええる。

② 評価小項目を比較して

- ・ 評価小項目Ⅰ－Ⅰ－②「学校運営協議会への児童参加」の項目が、2.3と最も低く、平均と比較して0.8ポイントの差が生じており、低い傾向が昨年度から続いている。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、児童の学校運営協議会への参加を見合わせている学校が多いことを物語っている。

しかし、今年度、小学校で、児童会の委員会活動として組織された「コミュニティ委員会」の児童が、広い会場での学校運営協議会に参加し「自治会長に地域行事の開催時期などを取材し、コミュニティ新聞にまとめ、子どもたちに参加の呼びかけをしている」という報告があった。また、中学校でも、広い会場を確保し、校則の見直しを生徒とPTA等で「校則検討委員会」を組織し、学校運営協議会で生徒を交えての熟議を行った学校もある。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しながらも、広い会場の確保など感染防止対策を十分に行ったり、クロムブックを活用してオンラインで参加したりなど、児童生徒が参加・参画する学校運営協議会の在り方を検討する必要がある。また、熟議や協議の内容が児童生徒の学校生活や地域での生活に関するものを取り上げることで参加の必要性も生じ、積極的な参加・参画につながると考える。

(2) 中学校

① 全体的傾向

- ・ 「令和2年度後期」と比較して、全体結果の平均が3.0から3.1に0.1ポイントの伸びが見られる。
- ・ 標準偏差の数値は、0.196から0.167と大きく減少し、各小項目間のバラツキが小さくなっている。
- ・ 39の評価小項目を比べると、Ⅰ－3－②「保護者の教育活動への協力」の1項目のみが減少し、他の38項目は増加もしくは変化なしという結果である。

このことから、新型コロナウイルス感染症が継続している中、全体結果の平均の伸び及び標準偏差の数値が減少し各評価小項目のバラツキが小さくなっていることから、コミュニティ・スクールの取組みは改善傾向にあると考える。小学校同様、「コミュニティ・スクールの歩みを進める」ために、学校運営協議会をリモートで開催したり、「できることを、できるやり方で実施する」という考えで、地域学校協働活動に取り組んだ成果の表れであると考ええる。

② 評価小項目を比較して

39の評価小項目の内、下位群に位置付いている項目が、Ⅰ－1－②「学校運営協議会への生徒の参加」、Ⅱ－1－②「地域を学ぶ活動」、Ⅲ－2－②「体力向上」、Ⅲ－3－③「学び、体験等の場づくりへの保護者の関心」、Ⅲ－3－⑤「地域行事への参加促進」の5項目であり、その中でも伸びが見られないものが、Ⅱ－1－②「地域を学ぶ活動」、Ⅲ－3－③「学び、体験等の場づくりへの保護者の関心」、Ⅲ－3－⑤「地域行事への参加促進」項目である。特に、Ⅲ－3－③「学び、体験等の場づくりへの保護者の関心」、Ⅲ－3－⑤「地域行事への参加促進」は、前期の課題でもあり、大項目Ⅲ「コミュニティ・スクールによる成果」を意図した組織的・計画的な取組が必要である。このことは、小学校でも同様の傾向が見られ、成果を意識した取組の充実が求められる。

(3) 令和4年度の実施の重点について

新型コロナウイルス感染症が発生して3年目を迎える。コミュニティ・スクール進捗状況調査の結果が大きく低下した令和2年度であったが、「コミュニティ・スクールの歩みを進める」を合い言葉に、各学校及び地域が創意工夫を重ね活動や取組を継続したことにより、徐々に回復の兆しが見られるようになってきた。令和4年度も新型コロナウイルスの影響は継続すると予測されるが「コロナに甘えず、つながりを深めよう」を合い言葉に以下の4点を取組の重点と位置づけ、令和4年度のコミュニティ・スクールの一層の充実を図っていく。

① 目標や目的を共有する熟議の充実

学校、家庭、地域が一体となり共育の基盤形成を図るには、目標や目的の共有が欠かせない。三者で目標や目的を共有しコミュニティ・スクールの活動や取組を進めることが学習指導要領の理念である「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」に通じる。目標や目的を共有するには、三者が積極的に考えや意見を出し合う熟議が不可欠である。学校や地域の教育課題、学校の自己評価に関わる課題等を話し合うことで、目標や目的、対応策が明確になる。三者で目標や目的を共有することがコミュニティ・スクールのマンネリ化や形骸化を防ぎ、持続性、発展性のあるコミュニティ・スクールにつながると考える。

② 地域コーディネーターのつなぎ役を生かした地域学校協働活動の整備・充実

評価小項目Ⅰ－3－④「地域コーディネーターのつなぎ役」のポイントが小学校では3.5ポイント、中学校では3.4ポイントと全ての評価小項目の中で一番ポイントが高い。市内全18校に地域コーディネーターが配置され、教育活動の支援や教育情報の発信、学校運営協議会の運営補助等、地域コーディネーターの取組の充実が見られた。特に、教育課程内の地域学校協働活動（「地域連携カリキュラム」）の推進に向けては、先生方との事前打合せやボランティア募集、自治会への協力依頼等を行い、「地域連携カリキュラム」が円滑に実施できるように整備され取組の充実につながっている。

地域コーディネーターの教育課程外の地域学校協働活動への関わりも見られ、つなぎ役としての役割が一定程度定着しているものの、次の段階として、より地域（特に自治会）の声を聴き、学校につなぐことをめざす必要がある。

今後は、学校の要望だけでなく、地域の願いを十分に汲んだ地域コーディネーターの役割に関する熟議を行うとともに教育課程内外の地域学校協働活動の成果や課題等を学校運営協議会で協議し、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図ることが大切になる。

③ 成果を意識した取組の充実

評価大項目Ⅲは、「コミュニティ・スクールによる成果」である。評価中項目Ⅲ－2「子どもの育ちの状況」、Ⅲ－3「保護者の子ども・学校・地域への関心の状況」の評価小項目は、前期に引き続き、小中学校ともに下位群（小…2.9以下、中…2.9以下）が目立つ。各学校の状況は異なるものの、コミュニティ・スクールの成果を意識した取組を充実させる必要がある。特に、Ⅲ－2－③「市民性の育成」に関しては、春日市がめざす大事な資質・能力であるので、各学校で、育成すべき市民性の資質・能力を焦点化・重点化したより一層の取組が必要である。「どのような子どもを育てるのか」という目標を共通理解し、そのために「どのような取組や活動を進めるのか」「目標に着目したとき取組や活動自体に見直すべき点はないのか」などの観点に立ち返り、コミュニティ・スクールの成果向上を意識した取組が大切である。

④ コミュニティ・スクールの目的や仕組み、活動等の認識の強化・拡大

各学校は、学校からのお便りや校長室だより、PTA総会や入学説明会等でコミュニティ・スクールの目的や活動等を周知している。自治会も「コミュニティ・スクールって何だろう」というタイトルでチラシを作成・配布し啓発に努めている。保護者や地域の方にも少しずつ浸透してきている。また、今年度「コミュニティ委員会」を児童会活動の中に位置づけ、児童へ啓発する活動も見られた。今後も周知・啓発活動を継続していくことが大切になる。

大人にとっても子どもにとっても一番の周知・啓発は、「活動に参加し、一緒に活動すること」である。コミュニティ・スクールの取組や活動を行うときには、活動そのものがコミュニティ・スクールの取組であることを知らせると共に、多くの方に声をかけ一緒に活動に参加するよう呼びかけることが認識の強化・拡大につながると考える。

小中学校ともに評価小項目Ⅰ－１－②「学校運営協議会への子どもの参加」が下位群に位置している。また、小学校は評価小項目Ⅰ－４－②「子どもへの周知」も下位群に位置付いている。学校、家庭、地域の共育の中で育つ子どもたちにコミュニティ・スクールのよさをより一層意識させる上でも、子どもたちの学校運営協議会への参加や周知を図る必要がある。

第6 教育委員から出された主な意見

点検評価報告書の事務局案について教育委員と事務局で協議をする中で、教育委員から出された主な意見は以下のとおりです。

ページ	教育委員から出された主な意見
14ページ	小項目「連携・協働活動の中心的な担い手の確保と幅広い住民の参画の促進」の令和3年度の成果と課題において、「LINE公式アカウントを運用している学校が2校に留まっている」とあるが、学校支援ボランティア募集としての情報拡散手段としてとても有意義なものであると思うので、18校全てで利用できるようなると良いと思う。
19ページ	小項目「子ども会活動等の支援」の達成度において、「インリーダー研修参加者の次年度の子ども会役員就任率が76%以上」および「子ども会活動助成金の執行率が76%以上」の項目が×となつてはいるが、令和3年度の成果と課題に「インリーダー研修修了者39人のうち、12人がジュニアリーダー研修に進んだ。」との記載があり、コロナ禍においても活動が継続的に続いているということもあり、評価を△として良いのではないかと。（※達成度を変更しました。）
37ページ	小項目「学びを始めるきっかけづくり」の達成度「4」の要件に「弥生の里児童画大賞展応募総数の増加」とあるが、今後児童数が減っていく中、応募数の増加はなかなか難しいのではないかとし、出品数 3,547点(うち市内学校からの応募 1,446点)と多くの応募があつているため、次回からは達成度の要件を変えてもいいのではないかとし、また、他市で同じような取組をしているのであれば、応募数を比較して評価の基準にするのも一つの手段かと思う。
45ページ	小項目「学校図書館の充実」の令和3年度の成果と課題において、「児童生徒の読書率は低下している。」とあるが、コロナウイルスの感染症対策もあるとは思いますが、令和4年度で取組める活動はないのか。（※令和4年度取組に追記しました。）

第7 学識経験者意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項において、点検評価を行うに当たっては教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。今回の点検評価においては、福岡女学院大学 学長 伊藤 文一 氏から以下のとおり意見を聴取しました。

点検評価報告書に対する意見

「教育は人なり」と申します。扇教育長の下、教育委員会内の協働体制がますます強くなっているように思われます。また、見やすくなった「令和3年度エデュケーションかすが」に基づく点検評価、及び「令和3年度コミュニティ・スクール進捗状況評価」には、「できることを、できるやり方で実施する」方向で推進されました。

また、PDCAサイクルによる効果的な教育行政の推進が継続され、きめ細やかに着実に実施されました。全ての取組が新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意して行われ、「すべては地域や子供たちのために」がよく見えるものになったように感じます。

【共育（共に育てる）の推進】 【学校教育の充実】

コミュニティ・スクールの推進、家庭教育の向上支援、地域教育力の向上支援等については、一定の成果がみられます。各学校も、チーム学校として組織で対応しておられます。そのことが、大学近くの小・中学校を訪問してもよくわかります。明るく笑顔の子供たちが元気に挨拶してくれます。学校・家庭・地域の連携協働体制づくりが、形になってきています。特に、コミュニティ・スクールの推進は、十分な成果が見られたとの自己評価でございます。今後、地域コーディネーターの拡大は大きな成果を生むものと考えられます。

【多様な学びの支援】

これからは、学習社会と位置付けられています。地域の活動につながる学びの機会の提供、図書館活用の推進等はますます需要が増すように思います。今後はより発展する方向で考えていただければと思います。

【文化財の保存・活用】

遺跡、文化財活用の促進については、一定の成果がみられています。これからさらに、組織的・系統的に取り組まれることを期待いたします。

これからは、「どのように社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るか」（学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養）、「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く知識・技能の習得）、「理解していること・できることをどう使うか」（未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成）の資質・能力の育成が求められています。今まさに春日市の取り組みがそうです。大いに期待しております。

資料(令和3年度春日市教育委員会の活動状況)

1 教育委員会の構成(教育長及び教育委員会委員)

(1) 令和4年3月31日現在

区分	氏名	任期	保護者	備考
教育長	(おおぎ ひろゆき) 扇 弘行	令和2年4月1日～令和5年3月31日		1期目
教育長職務代理者	(うおや けいこ) 魚屋 けい子	平成30年12月21日～令和4年12月20日		1期目
委員	(やすもと せいいち) 安本 誠一	令和元年6月29日～令和5年6月28日		1期目
委員	(そめはら れいこ) 染原 レイ子	令和2年6月29日～令和6年6月28日		1期目
委員	(みやざき たいさぶろう) 宮 崎 泰三郎	令和3年12月23日～令和7年12月22日	○	1期目

(2) 令和3年度に退任された委員

区分	氏名	任期	保護者	備考
委員	(たに やすひろ) 谷 康浩	令和元年5月17日～令和3年12月22日	○	1期目

2 教育委員会の会議の開催状況

(1) 開催回数 定例会12回 臨時会1回

(2) 教育委員会付議議案

開催番号	実施日	議案番号	議案名	議決結果
第1回(定例会)	令和3年4月16日(金)		議案なし(報告事項のみ)	
第2回(定例会)	令和3年5月14日(金)	第1号議案	春日市教育委員会寡婦(寡夫)控除のみなし適用に関する要綱等の一部を改正する告示の制定について	可決
		第2号議案	春日市特別支援教育就学奨励費支給規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第3号議案	春日市教育委員会公印管守規程の一部を改正する告示の制定について	可決
		第4号議案	社会教育委員の委嘱について	可決
		第5号議案	令和2年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
		第6号議案	財産の取得に関する意見の申出について	可決

第3回（定例）	令和3年6月30日（水）	第7号議案	春日市教育支援委員会規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第8号議案	令和4年度に小学校において使用する教科用図書の採択について	可決
		第9号議案	令和4年度に中学校において使用する教科用図書の採択について	可決
		第10号議案	春日市立小・中学校におけるインターネット利用に関する要綱の一部を改正する告示の制定について	可決
第4回（定例）	令和3年7月21日（水）	第11号議案	春日市ふれあい文化センター（市民図書館）の指定管理者の指定に関する意見の申出について	可決
		第12号議案	令和3年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
		報告第1号	臨時代理について（春日市奴国の丘歴史公園における児童の負傷事故に伴う損害賠償の額（既に決定した部分を除く。）の決定に関する意見の申出について）	承認
第5回（定例）	令和3年8月27日（金）	第13号議案	春日市教育委員会寡婦（寡夫）控除のみなし適用に関する要綱を廃止する告示の制定について	可決
		第14号議案	令和3年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
第6回（定例）	令和3年10月1日（金）		議案なし（報告事項のみ）	
第7回（定例）	令和3年10月29日（金）	第15号議案	令和2年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価について	可決
		第16号議案	令和3年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
第8回（定例）	令和3年11月19日（金）	第17号議案	春日市通級指導教室設置要綱の一部を改正する告示の制定について	可決
		第18号議案	社会教育委員の解嘱について	可決
		第19号議案	令和4年度教育費予算に関する意見の申出について	可決
第9回（定例）	令和3年12月22日（水）	第20号議案	春日市立学校に在籍する不登校児童生徒の指導要録上の出席の取扱いに関する要綱の制定について	可決
第10回（定例）	令和4年1月21日（金）	第21号議案	春日市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	可決
		第22号議案	令和3年度教育費補正予算に関する意見の申出について	可決
第11回（定例）	令和4年2月9日（水）	第23号議案	春日市指定文化財の指定について	可決
		第24号議案	「令和4年度エデュケーションかすが」の作成について	可決
第12回（臨時）	令和4年3月24日（木）	第25号議案	令和4年度県費負担教職員の人事異動に関する内申について	可決
第13回（定例）	令和4年3月30日（水）		議案なし（報告事項のみ）	

3 教育委員懇談会の開催状況

(1) 趣旨

教育委員懇談会は、教育委員会議の活性化への取組として平成22年度から実施しており、教育委員会事務局が抱えている諸課題や新規に取り組む施策等に関する現状認識、意見交換及び政策案の検討を目的とし、教育委員会委員と教育委員会事務局その他の関係者が一堂に会し、今後の方針及び方向性について協議する場です。

(2) 実施内容

実施日	議題	主な参加者(委員除く)	場所
令和3年5月14日(金)	特別史跡水城跡整備基本計画に基づく今後の整備について	教育委員会各課	市役所大会議棟大会議室
令和3年7月21日(水)	第2次実施計画要求について	教育委員会各課、地域づくり課、子育て支援課	市役所大会議棟中会議室
令和3年8月27日(金)	春日市教育支援センターの業務内容及び不登校に対する取組について	教育委員会各課、教育支援センター長	市教育支援センター
令和3年10月1日(金)	令和2年度事務事業点検評価について	教育委員会各課、福岡女学院大学長	市役所404、405会議室
令和3年11月19日(金)	体罰の実態調査の結果について	教育委員会各課	市役所大会議棟中会議室
令和4年1月21日(金)	令和4年度エデュケーションかすがの作成について	教育委員会各課	市役所404、405会議室

4 春日市総合教育会議の開催状況

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第1条の4の規定に基づき、平成27年度から市長と教育委員会を構成員とする春日市総合教育会議が設置されました。この会議を通して、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市の教育課題や方針の目標等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的な教育行政を推進します。

(2) 実施内容

実施日	協議事項	場所
令和4年2月2日(水)	春日市におけるICT教育の現状について	市役所議会棟全員協議会室
	その他市長事務部局と教育委員会事務局の連携について	